

No. 25

ニチメン東京社友会

E-mail menkwa@sojitz.com

【目次】

1. 「飯野ビル全景」・「双日㈱オフィス 周辺の案内図」	2
2. 2019年新年賀詞交歓会 開催のお知らせ	3
3. 2018年度 総会・懇親会 報告	
① 挨拶	会長 石原 啓資 4
② 来賓ご挨拶	双日㈱代表取締役社長 藤本 昌義 5
③ 総会・懇親会報告 懇親会 乾杯挨拶	編集部 6
—— 付録：総会出席者名簿・写真	
④ 2017年度事業報告および収支報告、ならびに2018年度事業計画および収支予算	
世話人 榊山 俊次	12
4. 会員動向および その他報告事項	世話人 榊山 俊次
① 新規加入者（10月末日分まで）	14
② 2018年度 年会費入金条項とお願い	15
③ 2018（平成30）年度 長寿者表彰者	16
5. 会員寄稿文	
① ハワイの日系人	松村 信男 17
② 運転免許返上	三分一 克美 21
③ 一帯一路の現状と将来	中川 十郎 22
④ 「介老同穴」奮闘記	山邑 陽一 27
⑤ ミステリ小説断想（8）	福富 直明 28
⑥ J R C A平和包囲網のすすめ	山邑 陽一 30
⑦ ヒューストン時代の少年と40年の交友	芳賀 信明 31
⑧ 大先輩三分一克美氏に捧ぐ「文豪ゲーテとその妻クリスティーアーネ」	
竹内 可能	34
⑨ 「長月会サロン」アーカイブス	長谷川 洋 37
⑩ 十 句	内田 英三 38
⑪ 最近の私のブログから	大山 弘雄 39
6. 同好会、部門別OB会	
① 鎌倉散策	新藤 孝 41
② 如月会（ニチメン経理部親睦会）開催報告	浅利 眞司 45
③ 一木会開催報告	奥村 睦夫 47
④ 俳句の会「いろは句会」	宇治田 薫 49
⑤ “ミニMSD会 秋の大園遊会”	大平 栗雄 50
⑥ 第13回ニチメン機友会開催のご報告	池永 浩 51
7. 追 悼 文	
① 高畠正博君を偲ぶ	山邑 陽一 56
② 松本靖史先輩を偲んで	高木 恒久 57
8. 計 報（11月末日時点）	58
9. 社友会役員・世話人一覧表ならびに連絡先・会員各位へのお願い	59
10. 編集後記	奥村 睦夫 60

飯野ビル全景



ビル正面入口から受付フロアまでの
直通エスカレーター



双日(株) オフィス 周辺の案内図

〒100-8691 千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング



地下鉄アクセス メトロ千代田線・丸の内線・日比谷線「霞ヶ関」下車、出口C4
メトロ銀座線「虎ノ門」下車、出口9

*** 2019年新年賀詞交歓会のお知らせ ***

恒例の賀詞交歓会を下記要領で開催致します。皆さま、奮ってご参加下さい。

開催日：2019年 **1月22日(火)** 開会 **11:30AM**

ご注意！ 開会は 11:30AM です（12:00 Noonではありません）。

なお、会場は 11:00AM から開けておきます。

会 場： **双日株式会社本社・21階 大会議室**

東京都千代田区内幸町2-1-1（飯野ビル内）

アクセス（メトロ）：

*千代田線・丸の内線・日比谷線「霞ヶ関」 **出口C 4方面**へ進み、
通路天井の案内板に従って、館内エスカレーターで **3階オフィスロビー** 迄。

*銀座線「虎ノ門」下車、 **出口9**。飯野ビル迄徒歩5分程度。

会 費： **無 料**（飲物、軽食を用意致します。）

特記事項

AAA 同封のハガキで **出欠** をご返事下さい。 **締切12月20日(木)必着**。

BBB このビルはセキュリティ確保のため、 **入館カード** が必要です。

3階ロビーの双日(株)受付付近で待機している社友会担当世話人に氏名を告げて、このカードを受け取った上、ゲートを入れて下さい。

ゲート出入りの要領は、SUICAやPASMOの使い方と全く同じです。

また、このカードは退館の時も必要です。それまでは必ず手元に保管下さい。

* その他、お問い合わせは、「世話人一覧表」記載の世話人か、または、社友会事務局にお寄せ下さい。FAXは03-6858-7216、Eメールは menkwa@sojitz.com です。

2018年東京社友会総会・懇親会における 会長挨拶

会 長 石 原 啓 資



ただいま、ご紹介いただきました会長の石原でございます。
本日はお暑い中、かくも多数の会員皆様にご出席いただき誠に有難うございます。

会員の皆様がお元気で豊饒とされているご様子には、幾分か若い私も頑張らねばとお力を毎回いただいている次第です。

本日はご多忙の中、双日株式会社様から藤本社長様はじめ、多数の役職員の皆様方にご出席を賜り、心より御礼申し上げます。有難うございます。

さて、完全引退して晴耕雨読の毎日を過ごしていると、新聞を隅から隅まで読むようになり、世間の出来事を目にしていますが、数か月前まで罵り合っていた両氏がシンガポールで会談を行って笑顔で握手されている光景を目にしました。数年前に広島で山崩れが生じ死者を出した災害がまだ記憶に新しいのですが、先月初め同じような災害で多数の死者を出し、想像を超える出来事が頻繁に起こっております。世界が平和になることは歓迎ですが、同じような災害が何度も起こることは如何かと？マークが付きます。最近一番納得ができないことが、参議院議員定数を6名増やすとの法案が国会で可決されました。ほぼ同日の新聞に人口減少の記事が掲載され人口減少下で、国会議員の定数が増えるとの理解に苦しんでいます。ボヤキ漫才のようになりましたが、何が起こるか事前に想像できない世の中です。自分のことは自分で守る自衛精神をもって日々生活を楽しんでいただければと思う次第です。

先日郵送されました株主通信によりますと、本年度から新たな三か年計画がスタートされ最終年度は当期純利益750億円以上のコミットメントが発表されています。継続可能な発展を遂げるための新規投資も果敢に行われるとの心強いメッセージを受け止めています。双日株式会社 の確固たる発展が着実に実行されることを心からお祈り申し上げます。

後ほどの総会にて諮らせていただきますが、ニチメン東京社友会運営メンバー世話人会も昨年から大幅に若返りを図り、各担当の責任者が新たに就任いたしました。年2回の会報発行、総会・懇親会、新年会と主たる行事を運営いたしておりますが、適時新しい情報を提供できますようホームページの刷新等新たな取り組みを対応させていただいております。本年の新年会でご紹介いたしましたホームページに「ふれあい広場」を設けましたが、残念ながら、ほとんど活用されていない状況が続いております。積極的にご利用いただき、ご活躍のお姿をPRしていただければと思っています。会員参加型のホームページに趣を改めればと考えています。どんどんアイデアをいただければ幸甚です。

ご清聴ありがとうございます。

[illegible]

また、新中計のスタートにあたり今年度より二つの部を新設致しました。一つ目はビジネスイノベーション推進室です。AIやIoTといった新技術分野との接点を持つ事を目的とし、RPA(Robotics Process Automation)による社内の業務の効率化にも取り組みます。RPAによる業務の効率化に伴う人員の営業部門への再配置等を推進し収益力の強化にも繋げて参ります。また、将来的には新技術領域への投資も検討していければと考えております。

二つ目はサステナビリティ推進室です。近年、Environment（環境）、Social（社会）、Governance（企業統治）の三つの要素において優れた経営をしている企業に投資する「ESG投資」が、株式市場で注目を集めております通り、持続可能な社会の構築への企業の貢献が求められていることは言うまでもありません。当社は年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が運用する日本株のESG指数にも採用されているFTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄にも選定されました。また、女性活躍推進に向けた取り組みが評価され、2年連続でなでしこ銘柄にも選定されています。今般、サステナビリティ推進室を設置し、今後も企業活動を通じて事業基盤の拡充や持続的成長といった「双日が得る価値」と、国・地域経済の発展や人権・環境配慮など「社会に還元する価値」の双方に共通する『2つの価値』の最大化に取り組んでまいります。

双日のさらなる成長に向け私自身が先頭に立ち、自分自身強い気持ちを込めた新中計の副題である“Commitment to Growth”の実現に向けて努力して参りますので、引き続き双日の成長にご期待、ご支援をよろしくお願い致します。また、暑い日が続いておりますので皆様もくれぐれもご健康にはお気を付けください。以上をもって、私の挨拶とさせていただきます。

続きまして2018年4月1日付で就任しております、新任役員の紹介をさせて戴きます。

執行役員 海外業務担当 栗林 顕

執行役員 化学本部長 佐々木 匡介

自動車本部長の村井 宏人、物流統括、ビジネスイノベーション推進担当の鈴木義人、金属・資源本部長の尾藤雅彰も同じく4月1日付で執行役員に就任しておりますが本日出席叶わず皆様へのご挨拶ができず申し訳ございません。以上新任役員のご紹介をさせて頂きました。

[illegible]

第13回 ニチメン東京社友会「総会・懇親会」開催報告

広報チーム

8月2日（木）双日(株)本社21階大会議室をお借りし開催。

数日前の逆走台風12号が去ったあとの猛暑の中、多数の会員諸氏、双日株式会社様からのご来賓を含め139名（別掲載出席者一覧）のご出席をいただきました。

11時に開場、11時30分の総合司会奥村世話人の開会宣言で始まり、当会石原会長の挨拶、引き続き来賓代表として双日株式会社代表取締役藤本昌義様から挨拶いただきました。

詳細は別ページに掲載しておりますのでご覧ください。

続き、大山弘雄副会長兼世話人代表を総会議長に選出し、総会議事に入りました。

◎2018年二チメン東京社友会総会出席者

2018.08.02開催

(50音順、敬称略)

(一般會員)

ア	青浅東甘荒池池石石泉井伊伊今宇大大太大大岡沖小小数勝鎚蒲川川木金久倉栗小	木井利木永本黒原田藤藤村津北崎田塚野場平島田野野森田木澤西畑寺城保又田西	聡正信武俊由靖伸正尚安隆木克隆弘静悦禎栗岩隆賢正泰順信正厚弘貞則久重	弥彦子廣雄浩通子造夫從志雄夫長利三之子良治雄男彦次稔彦司郎男勲己二明二夫彌勝
---	--------------------------------------	--------------------------------------	------------------------------------	--

力

介幸子造穰司一朗次美郷人也之昭晃徳久宏啓彦謙興夫郎仁郎英紀郎郎男弘男郎洋之弘志	之靖厚	良潤三統克美武哲俊忠	正恒允眞忠	昌道賢	十宜正	憲一捷昭	定喜川博正雅
林藤富	女井井藤藤一塚水石浦藤山原木瀬尻所中	田田川谷原島部村村本口谷	武				
小小近斎	五月坂桜佐佐三篠清白杉須陶大高高田田田谷谷津富中中中名南西西野橋長林林久						
廿	夕	十	八				

一子也孝明助章彦雄夫一三生朗孝章光吉一裕江造浩晴郎幸	絃玲昌直正正登磐憲博泰壽	本間本尾富井家真間瀉尾江上島武口田邑本本海川本辺辺	久比廣深福藤古秀本榊松溝村森矢安山山山山山吉吉吉渡渡
人資雄美史一郎夫雄子雄孝一	世話啓弘枝隆陽睦幸奈次春	役員・原山城江羽村川津持藤山	石大赤入大奥北木倉新園

西村照男
蛭田恒美
峠山俊次

(会員) 支援者

市垣笠滑堀 川田原川 伸佐聖和典 江代子子子代

(非会員) 支援者

今井恵子
増川恵子

(双日関係ご来賓)

二義茂一勤亮文顯介明修章	洋昌精雅貴匡敏敏	藤本原中中引原林木部浦西	佐藤西田田櫛小栗佐宮松河
--------------	----------	--------------	--------------

(非会員) 双日支援者

大熊恭子
村松慶子
野村恵子

①一般会員	103名
②世話人等	21名
合計	124名
③双日ご来賓等	15名

出席者数 合計
139名



2018年総会・懇親会風景





2018年総会・懇親会風景



2018年総会・懇親会風景



2017年度事業報告 及び 収支報告

(期間：2017年7月1日～2018年6月30日)

ニチメン東京社友会

I. 事業報告

	実績	千円 予算
第12回 総会・懇親会開催 (2017年7月13日) 150名 参加	553	700
会報・名簿の発行 会報23号 2017年12月1日発行 同24号 2018年6月15日発行 会員名簿 2017年11月30日発行	1,039	1,200
ホームページの運用	215	350
第11回 新年会開催 (2018年1月18日) 162名参加	722	700
慶弔行事	703	800

II. 収支報告

A) 収入の部

1. 会費	1,442	1,400
2. 双日助成金	2,500	2,500
3. 寄付	56	0
4. その他	0	0
合 計	3,998	3,900

B) 支出の部

1. 総会開催	553	700
2. 新年会開催	722	700
3. 会報・会員名簿の作成	1,039	1,200
4. ホームページの運用	215	350
5. 会員慶弔	703	800
6. 世話人会の運営経費	348	400
7. 事務所運営経費	773	850
8. 予備費+雑費	0	100
合 計	4,353	5,100

C) 繰越金及び預り金の部

当期収支残高	-355	-1,200
前期繰越金	2,431	2,431
当期末繰越金残高	2,076	1,230

(預り金)

次年度以降年会費等	1,125
双日次年度助成金	625
預り金残高	1,750
合 計	3,826

2018年度事業計画 及び 収支予算

(期間： 2018年7月1日～2019年6月30日)

ニチメン東京社友会

I. 事業計画

	実績	千円 予算
第13回 総会・懇親会開催 (2018年8月2日)	700	553
会報・名簿の発行 (名簿の作成は隔年です。今年度は会報のみの発行です。)	800	1,039
ホームページの運用	350	215
第12回 新年会開催 (2019年1月 予定)	700	722
慶弔行事	700	703

II. 収支予算

A) 収入の部

1. 会費	1,400	1,442
2. 双日助成金	2,500	2,500
3. 寄付	0	56
4. そ の 他	0	0
合 計	3,900	3,998

B) 支出の部

1. 総会開催	700	553
2. 新年会開催	700	722
3. 会報・会員名簿の作成	800	1,039
4. ホームページの運用	350	215
5. 会員慶弔	700	703
6. 世話人会の運営経費	400	348
7. 事務所運営経費	850	773
8. 予備費 + 雑費	100	0
合 計	4,600	4,353

C) 繰越金及び預り金の部

当期収支残高	-700	-355
前期繰越金	2,076	2,431
当期末繰越金残高	1,376	2,076
次年度以降年会費等	0	1,125
双日次年度助成金	0	625
預り金残高	0	1,750
合 計	1,376	3,826

会員動向

新規加入者

[illegible]

会 員 名 簿 訂 正

＊ ＊ たむ 各簿に訂正が必要な場合は 都度 事務局まで連絡願います

退会者（敬称略）（2017年度）

西尾俊明

資格喪失者（敬称略）（会則 11 条 3 項により、会費を2年間以上未払の場合が該当いたします。）

曾根寿、内藤かつ代、花崎俊雄、吉弘ちよ

連絡が途絶えている方（敬称略）

(連絡先をご存知の方は、事務局までお知らせ願います。)

石川勝美、小橋雅寛

皆様の周りで未加入の方がいらっしゃいましたら是非勧誘いただきたく思います。

本会の会則に同意して、会費を納入頂けるなら会員になります。

(ニチメン、ニチメンの関連会社に在職したことのある方が対象になります。)

◎ 2018年度(2018年7月～2019年6月)年会費(3千円)入金状況とお願い

2018年10月31日現在

会員数	入金済会員	長寿会員(註1, 2)	終身会員	未納会員
481	353	45	4	79

** 2017年度分未納者数 **

5

尚、来年度(2017年7月～2018年6月)年会費 納入済の方→

63

(註3)

お願い：

2017年度会費を未納付の方は当年度中の納付にご協力下さい。2016年度分未納者は大至急2017年度分と合わせて納付頂くようお願い致します。当会会則第11条の規定により2期分の会費未納者は会員資格喪失となります。振込先は、下記いずれかを利用して下さい。(振込手数料は各自ご負担願います。)

1) 郵貯銀行

口座番号 : 00100 - 4 - 318041

口座名義 : ニチメン東京社友会

(ゆうちょ銀行に口座のある方は、口座間送金を利用すると手数料は無料です。)

2) 三菱東京UFJ銀行 東京営業部

口座番号 : 普通口座 8225155

口座名義 : ニチメン東京社友会 代表 石原啓資

振込に際しましては、振込者名欄にご自身の名前を最初に左詰めに記載願います。

(ネンカイヒ、ニチメン、XXネンドカイヒ 等の記載があると振込者名が通帳に記載されず、振込者が特定できません。)

(註1) 長寿会員は年会費免除になっておりますが、長寿会員からご送金を頂いた場合は当会へのご寄付とみなし処理させていただきます。(会運営上大変助かります)

但し、何らかの手違い等であれば事務所までご連絡下さい。

(註2) 長寿者氏名：(50音順 敬称略)：

石川勝美、石澤謙一、市川元久、伊藤安雄、岩居宏一、内田英三、海野敏夫、大塚静子、大西勇、大野久生、大村譲、大森啓作、河西郁夫、河西良治、上条達雄、亀田昭、木内純一、北村俊夫、古藤彰三、近藤貞一、斉藤弥、三分一克美、新野敬一、杉浦幸雄、高間宏治、伊達邦雄、南部晴雄、西奥薫尚、橋爪覚、平岡昭三、廣瀬一彦、深尾孝、福富直明、古川熙、松尾憲一、松田實、松本忠夫、松本寿夫、丸山泰三、三嶋敏夫、宮浦博、三宅葉、宮田信雄、望月昌徳、吉田孝生、以上 45名

(註3) 2019年度(2019.7～2020.6)年会費納入済会員(50音順敬称略):

<< 来年度は、振込不要になります。再来年に、20年度分の振込をお願いいたします。>>
青木浩、赤澤宏哉、浅井正彦、芦村八郎、荒木武雄、池田照幸、石原啓資、伊藤尚志、
宇津木長、大北克利、尾羽沢正敏、勝田泰司、川崎恵美子、川西勲、喜多嶋雄徳、窪田厚三、
倉又則夫、小林正史、小松繁範、篠塚美郷、柴田実、新藤孝、鈴木譲治、陶山晃、高田秀子、
高橋正尚、田中弘、土橋勇、富田仁、豊福清二、永井清光、永田堅志郎、中原正紀、西田昇、
西野幸夫、西村昭男、庭野松三、野城恒男、野本定男、長谷川洋、羽中田鐵也、花林亨、
平石豊、廣田雄太郎、藤井宏憲、細谷和夫、堀江亘、本間登志雄、松村森男、松本幸子、
水野英幸、宮尾迪子、村上匡一、村上泰生、本松巖、安井修司、八津道夫、山岸正雄、
山口一光、山邑陽一、吉内健次、吉木健、若月義和、以上 63名

(注4) 2017年11月以降で 寄付をいただいた方々

齊藤弥、内田英三、大塚静子、三嶋敏夫、大森啓作、河西良治、福富直明、岩居宏一、西奥薰尚、木内純一、三分一克美、海野敏夫、大西勇、松本忠夫

[illegible]

2019年新年会 長寿者お祝い対象者(敬称略)

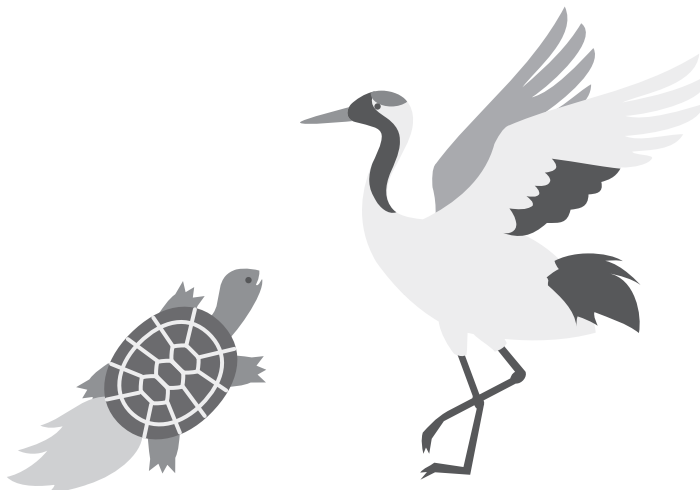
白寿（1921年生まれ）

該当なし

米寿（1932年生まれ）10名

小林齊之介、桜井潤一、川崎恵美子、松村信男、幾島清、高田秀子、中谷喜良、久保貞二、佐藤光義、西村弘

なお、大変恐縮ですが対象者の名前に漏れ等不手際があれば至急世話人へ連絡願います。



会員寄稿文

ハ ワ イ の 日 系 人
……アイデンティティに誇り……

松 村 信 男

社友会のみなさまのなかには、ハワイをご存知の方が大勢いらっしゃると思う。ハワイの良さはいろいろあるが、気候、景色など、自然の美しさもさることながら、日本人にとっては、緊張感がなく、居心地の良い場所である。ハワイでは日系人の地位が非常に高いことが理由の一つだと思う。

100年以上前にはじまった農業移民の時代、日系人排斥運動のあった時代、日系人は二級市民、歓迎されざる外国人とされ、戦争が始まると今度は敵性外国人として扱われた。では今の日系人の地位はどのように築かれたのか。日系人の苦労の蓄積があったからとか、時代が変わったからというのは簡単だが、このような逆境の中で誇り高い日系人が発揮した不屈の精神と、日本憎しという風潮が支配していたこの時代に、少数の白人たちが日系人に理解を示し、日系人から信頼を得ていたこと、これらの事実が織りなした歴史に注目したい。そのような人たちを代表する一人の日系アメリカ人と、一人の白人アメリカ人を紹介してみたい。

ハワイは1959年5月、アメリカ50番目の州として合衆国に併合された。現在の人口140万強、うち95万以上がオアフ島に住む。併合のあと白人人口が増えたが、あとはフィリッピン系、日系、ハワイアン系、中国系など。アジア系を合計すると40%を超えるので、白人にもマジョリティ意識はなく、ハワイの人たちは異人種の混合が当然と思っているようである。歴代知事も白人、日系、ハワイアン系、フィリッピン系と多

彩である。

日系人の地位について言えば、第二次世界大戦における日系人部隊の活躍に負うところが大きい。戦時中、日系人の多くが敵性外国人として本土各地やハワイのキャンプに移され、その子弟が志願してヨーロッパで勇敢に戦ったという歴史がある。一世の親は、家名に泥をぬるなどと言って、出征する息子を見送ったという。民主党上院議員であったダニエル（"ダン"）・イノウエ氏は、高校をでたあと外科医をめざし、ハワイ大学医学部に在学していた。1943年、日系人からなる442連隊が編成されるや直ちに志願、派遣されたのはヨーロッパ戦線である。ドイツの降伏が数週間後に迫っていた1945年4月、イタリア北部の山岳に立てこもるドイツ軍の撃破を命じられた。小隊長であったイノウエは、丘に立てこもる敵陣に10メートル足らずの距離まで這い上がり、右手に持つ手榴弾の信管を切り、投げようと右腕をあげた途端、肘に敵弾を受ける。右腕はだらりと肩から垂れ下がり、血を吹いている。信管を切られた手榴弾はまだ右手に握ったままだ。数秒で爆発する。イノウエは咄嗟に手榴弾を左手にもちかえ、次の弾を装填しようとしている敵兵に投げつけた。（同氏自伝から）。

右腕のないこの上院議員は、知るひとぞ知るアメリカの英雄であり、名誉職とはいえ、上院仮議長として大統領継承順位三番目という高い地位に登りつめた。余談だが、私には懐かしい思い出がある。ある旅行か

らの帰り、ロスアンジェルスからホノルル行きのフライトに搭乗した。通路側の席に座ると、そのあと乗務員の先導で入ってきたイノウエ議員が、私の右隣の席についたのである。私は、"Hi, Senator" とだけ声をかけたが、彼はさかんに咳き込んで、苦しそうにハンカチを口に当てていた。軽い咳だがなかなか止まらない。飛行機が離陸したあと、私はたまたま持っていた咳止めのドロップを袋から数個取り出し、両座席の境にある肘掛においた。彼はひとつなめ終わるとまた次へと手を出し、私が新たに取り出したドロップを、5時間の飛行中ずっと舐めていた。ホノルル空港に着くと夜の10時を過ぎていた。もう医者も、薬局もしまっている。私は袋の残りを全部彼に渡すと、かれはにやりと笑って頷き、袋を左ポケットに収めた。彼が乗務員の誘導で出口に向かう間、他の乗客は静かに座席についたまま、このアメリカの英雄が出口に消えるのを見送っていた。機内で彼は乗務員のサービスにたいしても、私とも、一言もしゃべらず、左手のジェスチュアと表情を使っただけだった。翌朝の新聞でその日、イノウエ議員がワイキキのホテルで行われる在郷軍人の集まりでスピーチをすることを知った。そのおよそ1年後の2012年12月、イノウエ議員は呼吸不全が原因で、88年の生涯を閉じた。ハワイの国立墓地で行われた葬儀には、オバマ大統領も参列した。2017年はじめ、ハワイの州議会は、ホノルル国際空港をダニエル・ケン・イノウエ国際空港と命名した。イノウエ議員のことを詳しく書いたが、先の大戦中、ヨーロッパやアジアで活躍した日系人の逸話は数しれない。トルーマン大統領は、戦後ヨーロッパから引き上げてきた日系部隊をホワイトハウスに招き、「諸君は敵ばかりでなく、偏見とも戦い、そして勝ったのだ」と、その功績をたたえ、感謝状を贈ったという。

次に一人のアメリカ人。太平洋戦争の前

夜から戦中、戦後を通じ、一貫して日系人に理解をしめした人物がいる。当時ホノルル警察に勤務し、のちに連邦下院議員、そしてハワイ州知事をつとめたジョン・A・バーンズ氏である。戦前、ハワイに住む多くの日系人の家庭では、自宅に神棚をまつり、天皇、皇后の写真や、日の丸をかざるのが普通だった。1937年、支那事変が始まると、千人針の腹巻や、金銭を中国で戦う日本の兵隊に送り、中国大陆での日本軍の進撃に湧き立った。日米緊張が高まる中、アメリカ政府が、いったん日本との戦争がはじまれば、この日系人たちは果たしてアメリカに忠誠でいるだろうか懸念したとしても不思議でない。当時ハワイに住む日系人は15万人、そのうち一世が3万7千人いた。こうした中、ホノルル警察は署内にFBIに協力する組織として諜報部を発足させ、当時刑事部にいたバーンズ氏を責任者にあてた。FBI側の担当はロバート・シバース氏であった。

連邦議会の不安が高まり、ミシシッピ州選出の議員が、ハワイ準州を民間政府から軍事政府に変えるべし、という戒厳令法案を提出した。1941年11月18日、日刊主要紙「ホノルル・スター・ブレティン」に投稿があった。署名はJ.B.とある。「ペンシルバニア、ミネソタ、ウエストバージニア、どの州でもよい。みなさんの州を相手にこのような法案が提出されたとすれば、どうしますか？これがアメリカかと疑いたくなるような仕打ちをされたら？ハワイだけ特別なのですか？ハワイの市民、外国系の人たちが非アメリカ人であるという証拠でもあるのですか？日本人は法律を守る善良な市民たちです。彼らが日本に愛着を持つのは当然です。こうした出身母国への愛着なしに、果たして良きアメリカ人であると言えますか？みなさん、アメリカ人らしくありましょう。正義は平等でなければなりません」(バーンズ伝記より、筆者抄訳)。

戦争の危機が迫り、日系人への風当たりが強まるなかで、公職にありながら堂々と主張をのべたバーンズ氏は、まさにアメリカの良心であると思う。FBIのシバース氏も良識ある人であった。真珠湾攻撃の1週間前、FBIは攻撃の情報をつかんでいた。シバース氏が密かにバーンズ氏にこれを知らせたとき、彼の目に涙がうかんでいたという。アメリカ全土のこうした風潮の中で、ホノルル警察やFBIにバーンズ氏やシバース氏がいたことは、不幸な時代でありながら日系人にはラッキーなことであった。開戦のあと、連邦政府は、アメリカに住む全ての日系人を収容所におくるよう命じ、カリフォルニア州を中心に西海岸からは12万人の日系人が米本土各地のキャンプに送られた。ハワイでキャンプに送られた日系人の数は、僧侶、日本語学校の校長など、リーダー職にある人たちを中心に、1,444人にとどまった。日系人の人口は当時のハワイ全人口の37%をしめ、経済的にも、社会的にも、ハワイには日系人は必要だと、バーンズ氏らが働きかけたためである。

戦争のなかば、アメリカ陸軍は日系人子弟からなる日系人戦闘部隊をつくるという提案を行った。カリフォルニア州から2,500人、ハワイ州から1,500人の志願兵を募るという構想であったが、ハワイで志願した若者は1万人近くに達したという。結局、ハワイから2,500人がえられ、442連隊が結成された。日系人を庇ってきたバーンズ氏は日系の若者にたいし、アメリカ市民として愛国心を示すよい機会だと激励したという。

戦争が終わりに近づき、アメリカでは終戦で復員する若者の教育、職業への復帰が大きな問題であった。ハワイでも同様である。負傷してローマの病院にいるハワイ出身の日系人兵が親にあて、「俺たちは命をかけてアメリカのために戦った。しかし、ハ

ワイに帰るとまた二級市民に戻るのですか」と書いてきた。少数の日系の有識者たちを中心に、日系人とのコミュニケーションのあったバーンズ氏も加わり、復員兵士への対応、ハワイ社会の改革、将来の合衆国への併合などの課題から、民主党の立て直しへと議論が進んだ。

バーンズ氏は警察官をやめ、政治家に転向した。彼が目指したのは、存在とは名ばかりの民主党の立て直しであった。理想はあっても、資金もない、人もいない。戦前から元ハワイ王朝と連携し、ハワイの政治を牛耳ってきた共和党の壁は厚かった。一方、ダニエル・イノウエ氏は、退役大尉として復員したあと、ハワイ大学、ワシントンのジョージワシントン大学で法律を学び、ハワイにかえって弁護士を開業していた。ハワイでは、442連隊退役軍人クラブができ、イノウエ氏はそのリーダー格だった。教育を受け、社会人になっていた元日系兵士たち、日系人コミュニティは、戦前、戦中にバーンズ氏が示した日系人への恩義を忘れていなかった。442連隊退役軍人クラブは、バーンズ氏を名誉会員として招いていたのである。1957年、民主党はついにバーンズ氏を連邦下院議会に送り込んだ。バーンズ氏らの努力もあり、1959年5月、ハワイ準州は、念願叶ってアメリカ合衆国に併合された。その年バーンズ氏は、最初の知事選に出馬したが、共和党の準州知事現職にやぶれた。しかしバーンズ氏は自分のあとイノウエ氏を下院議会に送り込む。1962年、バーンズ氏は州2代目の知事に就任、3期目には副知事として、もと陸軍情報部長であったジョージ・アリヨシ氏を起用する。バーンズ氏は、アリヨシ氏を自分の後継者と見据え、育てようとしていたのである。アリヨシ氏はバーンズ氏のあと、3期12年知事をつとめた。そのあと、知事にはハワイ系、フィリピン系、白人系の人たちがつしたが、現在は再び日系のデイビッ

ド・イゲ氏である。イゲ氏の父は戦時中442連隊に所属し、ヨーロッパ戦線で戦った。

バーンズ氏は連邦下院議員として、ハワイ準州の合衆国併合に尽力、知事としてはホノルルにある州議会ビルの建設、ハワイ大学のレベル向上、そのほか数々の功績を残した。カカアコの海岸近くに立つハワイ大学医学部には、John A. Burns School of Medicine の名が冠せられている。



(注) 写真は、1959年下院議員に当選したイノウエ氏夫妻を祝うバーンズ氏。(ハワイ大学出版“JOHN A. BURNS, THE MAN AND HIS TIMES”より)

(後記)

私は昨年9月、30年を超えたハワイ暮らしに終止符を打ち、日本に引き上げてきました。旧友との親交を深め、日本の食事、四季、地方のよさを味わいつつ、余生を過ごしたいと願ったからです。ハワイについての感想は多々ありますが、みなさまにも親近感のあるハワイについて、これも知っていただきたいという思いで、この拙稿を寄せさせていただきました。ハワイの日系人が築いた高い地位の基盤となった歴史の一端をお読み取りいただければ幸いです。

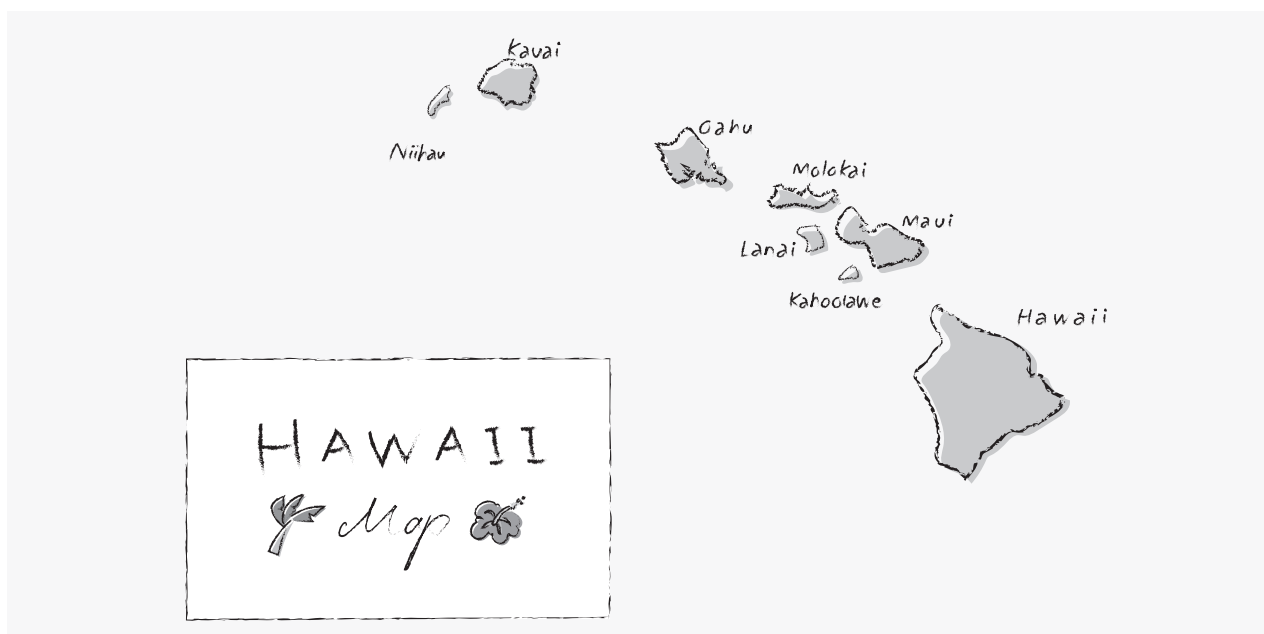
この拙稿は昨年、私が所属します大阪の小学校同窓会会誌「千里山会」に寄稿したのですが、千里山会のご了承をえて転載させていただきました。

以 上

[略歴]

米国ニチメン、大阪、東京社長室、企画室など、交互に勤務のあとフロリダに駐在、東洋不動産との共同投資（アリゾナ、フロリダなど）、鹿島建設とのコンドミニアム合弁開発（フロリダ）を担当。

あと東洋不動産の招きで移籍、同社ホノルル事務所に11年間勤務。退職後もハワイに居住し通算31年。2017年9月に帰国、現在千葉市在住。



会員寄稿文

運 転 免 許 返 上

三分一 克 美

昨年2月、米寿を機に運転免許を返上しました。爾来何処に行くのも2本足の世界に戻りましたが改めて車をめぐる様々な思い出が甦る今日この頃です。

1961年11月初めての海外駐在員としてシカゴに赴任しました。単身赴任中の小森さんと同じマンションに住み、ダウンタウンの会社まで彼の愛車1959年型 STUDEBEKER LARK で通勤しましたが、零下20度近い日でも暖房が効かず震え上がりました。小森さんに文句言くと、中古なのでマニュアルも無く、我慢してくれとの事。ようやく春めいた3月頃、それでもあまり寒いので、キーボード近くのチョークを手あたり次第引張ると暖風が出るではありませんか。二人で大笑いしました。

土橋支店長から仕事の上でも、家族を呼び寄せた時にも必要なので、すぐに運転免許を取れと言われました。何度か実地教習を受け、免許試験の前日、支店長秘書のJUDYが“一度で受かりたいなら、マッチケースの中に10ドル紙幣を畳んで入れてダッシュボードの上に置きなさい”と入れ智恵を授けてくれました。試験官はさりげなくマッチを取りお陰で一発合格。然しそれが後から支店長に知れ、きつくしぼられました。

小森さんが家族呼び寄せたので、私用、社用の為柳瀬さんと400ドルずつ出し合い、中古のFORD GALAXIE 1962年型を購入しました。コンパクトカーが流行り出したので最後の大型車と言われましたが2ドア、2カラー、ハードトップの堂々たる

車でした。所が二人で交互に運転してみると、走行中に窓ガラスがガタンと落ちるし、大型の後付けエアコンを使用するとバッテリーの容量不足で赤ランプが点滅する代物でした。

新参運転手にとり冬のシカゴは手荒い相手でした。11月頃初雪が降ると晴れても道路はアイスバーンになり3月まで溶けません。滑るとハンドルを取られるので、こまめに軽く何度もブレーキを踏むことを覚えました。

粉雪の場合は、一寸した坂でも滑り、後退することがあるのでギヤーをLOWにして恐る恐る上りました。寒波襲来のニュースが入ると、エンジンの上に毛布をかけましたが、そんな時はハンドルのオイルも凍結して動かないので、ソロソロ前進して徐々に曲がりました。

降雪の情報が入ったので、行きつけのガソリンスタンドでスノータイヤに切り替えて、会社に行くため複数レーンのLAKE SHORE DRIVE に乗り入れたところ、どうも後輪がガタガタして気になるのでスピードを落としました。途端にタイヤが外れて車は見事に一回転。目を開けるとレーンのど真ん中で、後続の車が目の前に来てました。幸い通勤ラッシュ時だったので皆ノロノロ運転で、追突される事も無く命拾いしました。

それからはタイヤ交換した時は、念のためハブキャップを外してホイールナットの締めを点検するようになりました。

家族を呼び寄せることとなり、コンシューマ

レポート等で研究、出始めのインターメ
ディエイトサイズの FORD FAIRLANE を
大枚4,000ドル出して購入しましたが、家族
4人で乗ると馬力不足で、坂道では後続車
に追い抜かれる事しばしばでした。

1967年に帰国することになり、郊外の
ショッピングセンターで買い物して駐車場
に行つた所車が見当たりません。警察等に

届けましたが見つからないので保険で求償しました。所が帰国寸前になって、遠い郊外で放置されてるのが見つかった連絡ありましたが、すでに保険会社に所有権移転してるのでそのままとなりました。

色々な経験のお陰で、それからの国内、
国外での運転を大過無く60年近く出来たこ
とに繋がったのではと改めて感謝してます。

[illegible]

會員寄稿文

『一帯一路の現状と将来～陸の「西安」と海の「天津」より考察する』

中 川 十 郎

1. 総論～はじめに

「一帯一路」の背景

① 経済発展軸のユーラシアへの回帰、アングス・マデイソンのGDP推計（1820～2030）

アンガス・マデイソンのGDP推計によれば200年前の1820年には中国の世界に占めるGDPは32.9%、インドが16%、アジア全体で59.3%と約60%を占めていた。これに対し、西欧23%、米国1.8%、日本3%、先進地域は27.9%。それが第二次世界大戦後の1950年にはそれぞれ、中国4.6%、インド4.2%、アジア全体では14.9%に落ち込み、逆に米国が27.3%、西欧26.2%、日本3%と先進国が59.9%と逆転した。

2003年には中国15.1%、インド5.5%でアジアは40.5%、米国20.7%、西欧19.2%、日本6.6%で先進国49.6%となった。

12年後の2030年には中国23.8%、インド10.4%、アジア全体では53.3%、米国17.3%、西欧13%、日本3.6%。先進国は36.4%と200年前の1820年に近付きアジアが先進国を逆転。

すなわち、世界は、19世紀のボックス・ブリタニカ、20世紀のボックス・アメリカーナ

の時代から21世紀は中国、インド(Chindia)の時代、即ち、パックス・チンデシア、パックス・アジアナの時代に回帰する。

更に注目すべきは東南アジアには4000万人以上の華僑、華人ネットワークがあることだ。彼らはいわゆる目に見えない中国国家（Invisible State of China）、仮想現実国家中国（Virtual State of China）を構成し、東南アジアでビジネス、金融、情報分野で隠然たる力を発揮している。

この強力な東南アジアの華人・華僑ネットワークが今後、アジアで特に海のシルクロード構築に際し力を発揮することを認識する必要がある。

すでに香港のリカシンググループはアジアを中心に港湾建設で力を発揮している。このような経済史的観点から中国のユーラシアの東から西ヨーロッパへの物流網、インフラ、貿易再構築のグローバル戦略「一帯一路」(Belt & Road Initiative=BRI)を理解すべきである。

かかる動きも含め、ヨーロッパ諸国はアジアに注力し、AEM（アジアヨーロッパ会議）を2年に一回、開催し、アジアとの関係強化を努力している。

②古代文明発祥地、黄河文明、インダス文明、メソポタミア・シュメール文明、エジプト文明の4大文明、更にギリシア、ローマ文明もユーラシア・北アフリカの一角に誕生。

世界最大の版図を誇った蒙古帝国もその活動の中心はユーラシアであった。

かくして地図、火薬、羅針盤、シルクなどがマルコポーロも活躍したシルクロードを経由して中国からヨーロッパへもたらされ、ヨーロッパの近代化に貢献したのである。

まさしく「一帯一路」は陸と海からシルクロード再構築の歴史的背景を踏まえた中国の遠大な21世紀の戦略であると理解すべきであろう

③BRICSと「一帯一路」(BRI)

BRIは21世紀に発展する地上最大のユーラシア大陸とアフリカ大陸の結合を目指す中国の世界戦略である。それはまた21世紀の新興国、BRICS（ブラジル、ロシア、インド、中国、南ア）の協力の強化にも貢献するであろう。その動きはAIIB（アジアインフラ投資銀行＝本店：北京、資本金1000億ドル）に続くBRICS開発銀行（本店：上海、資本金500億ドル）の設立にも見て取れる。

今後ユーラシアの有力国、中国、インド、ロシアを中心にアフリカの雄、南ア、南米の雄ブラジルが一帯一路でさらに協力を深め、穩然たる力を発揮するであろう。ちなみに第2回、一帯一路首脳会議は2019年にインドで開催することが決定している。

④SCO(上海協力機構)、EEU(ユーラシア経済連合)と一帯一路(BRI)

SCOは22年前の1996年に中国、ロシア、タジキスタン、キルギスタン、カザフスタンの5か国で結成され、上海ファイブとして誕生した。2001年にはウズベキスタンが参加し6カ国のSCO（上海協力機構）が誕生。

中央アジア6カ国の政治・経済協力機構として実績を上げてきた。2017年には南西

アジアの有力国、インド、パキスタンの加盟によりSCOの人口は30億人となりユーラシアでの政治・経済分野での影響力をさらに強化した。

一方、ロシア主導のカザフスタン、ベラルーシ、アルメニア、キルギスのEEU（ユーラシア経済連合）もSCO同様、「一帯一路」の一種の下部機構として活動を強化しており、今後ともSCOとともにBRIの重要なパートナーとして活動をしていくものと思われる。

「一帯一路」については習近平主席が2013年にカザフスタンで「陸のシルクロード構想」、インドネシアで「21世紀海のシルクロード構想」を発表したことが発端との見方があるが、筆者はその背景には1996年に発足の中国、ロシアが主導した「上海ファイブ」、2001年にカザフスタンを加えた「上海協力機構（SCO）」の20年近い協力の経験がすくなく影響を与えているのではと見ている。SCOの20年近い貴重な知験がBRIの設立と運営に役立っているのではないだろうか。

⑤第3の物流革命～北極海・氷上シルクロードの出現

19世紀のスエズ運河、20世紀のパナマ運河に続き、2018年に通年の航行が始まる北極海のLNG自走砕氷船の出現は世界の物流に対してスエズ運河、パナマ運河に匹敵する世界の物流革命を齎らすとみられる。ロシアの北極海のヤマル半島のLNG基地からのアジア向け自走LNG砕氷船の通年運航が18年に開始される予定である。

これは「一帯一路」の陸のシルクロード、海のシルクロードに続く、21世紀・北極海氷上シルクロードの出現となり、世界に第3の物流革命をもたらすことになるだろう。ロシア北極海ヤマル半島LNG基地建設には日本の日揮。自走LNG砕氷船建造には韓国・大宇造船所が参加。LNG船運航には中国海運と日本の大阪三井商船が参加。ロシア、中国、韓国、日本の協力が動き出し

ている。このLNG船がロシアのLNGを中国、韓国、日本、アジアに輸送する計画は「一帯一路」に画期的な北極海物流革命をもたらすだろう。その推移に十分注目すべきであろう。

⑥「一帯一路」と運命共同体論

3月24日に桜美林大学千駄ヶ谷キャンパスで開催のアジア・ユーラシア総合研究所の研究発表会で国際貿易投資研究所研究主幹の江原規由氏は一帯一路の根底に中国の人類運命共同体の概念があるとの注目すべき見解を発表された。

「今日、このような壮大な理念やプランを世界に提起し、コンセンサスを得られる国は、中国を置いてほかにない。現在 中国は世界経済の成長率に対する寄与率で世界トップの30%を占めているなど多くの点で世界に多大な貢献をしている。人類運命共同体の理念に同調し、その構築に参加する国が増えている。中国が国際社会において、その利益を代弁するとしている発展途上国や100余カ国が支持・参加する一帯一路は沿線国から支持を受けている。」と発言があったが筆者も全く同感である。

⑦ユーラシア・グループ、イアン・ブレマー氏の中国戦略論と宇沢弘文博士の「人と経済」理論、洪澤栄一の「論語と算盤」理論と「一帯一路」

未来予測研究家のイアン・ブレマー氏は「今日、世界で未来志向に基づき、世界戦略を打ち出している国はヨーロッパでもアメリカでもない。

それは唯一中国のみだ」と喝破している。これは中国の未来戦略「一帯一路」を指しているのではないか。

ノーベル経済学賞候補の呼び声高かった故宇沢弘文博士は著書『人と経済』でアダム・スミスの国富論の“*There is no wealth, but life*”より「富を求めるのは、道を開くためである」と解し、経済に倫理、道德の

必要性を力説しておられる。

明治時代の日本資本主義の父、洪澤栄一は有名な著書「論語と算盤」でこれまた倫理の必要性を強調しておられる。中国の「一帯一路」戦略が世界の人類共同体、格差の無い人類の幸せを希求するものであることを祈念したい。

2. 各論～陸の拠点「西安」と海の拠点の一つ「天津」

①シルクロード陸の拠点西安「一帯一路」北京会議

2017年8月24日北京にて第二次中日陝西(陝西省～日本ビジネス交流会)が陝西省商務庁、JETRO北京事務所主催で開催された。「一帯一路」の陸の拠点の一つとなる「西安」関係者が参加することによって筆者はこの会議に日本から参加した。西安側からは一帯一路の陸のシルクロードの起点となるところより、日本からの一帯一路への参加を強く要請があった。だが日本側は腰が引けており、将来の為に「一帯一路」関係情報を収集しようとの感が否めなかった。筆者はこれに対し、21世紀のユーラシアにおける巨大プロジェクトとしての一帯一路に日本としてぜひ参加すべきだと主張した。日本企業関係者は日本本社が「一帯一路」に日本政府や経済関係機関に気兼ねし現地日本企業は積極的に動くことに慎重で消極的な雰囲気であった。

中国側の説明で西安近辺は陸のシルクロードの拠点として特に陸、空の物流網の構築、関連施設、インフラの建設が急速に進んでおり、日本の出遅れが痛感された。このままでは日本は欧米や韓国などの外国勢に大きく出遅れることが危惧される。長期的かつ戦略的な日本の対応が強く望まれた会議であった。

②中国北部海の拠点の一つ「天津」

北京、上海、重慶とならび中央政府直轄市である天津市は広大な敷地に先端的かつ

意欲的な健康医療特区、自由貿易試験特区、工業団地を有し、かつ中国北部の海のシルクロード主要港として今後、「一带一路」に関して重要な拠点の一つになるとの認識から日本ビジネスインテリジェンス協会(BIS)ミッション18名を2018年1月29日～2月1日に派遣し、現地視察を行った。天津市はJETROと協力のMOUも結んでおり、日本との関係強化に熱心であった。今後高齢化が進む中国にあって、天津市はとくに健康医療について長期的な観点から戦略を練っており、今後の日本の健康医療協力、医療観光分野での重要な相手との印象を強くした。上海、シンセン、広州などに次ぎ、中国で2017年コンテナ取扱量で第6位の天津港は広大な敷地に広いコンテナヤードを有し、天津から120キロの後背地北京を有する天津市は「一带一路」の北部中国の海と陸の物流の結節点として重要であるとの認識を強くした。

新幹線で40分と首都北京市にも至近な港湾都市であるところより、一带一路にも関心が高く、しばしば「一带一路」研究会や講座、講演会が開かれ研究が進んでいることを実感した。日本にも近い中国北部港湾都市ゆえ、今後日本との提携強化が肝要との認識を強くした次第である。

3. 結論

～ユーラシアを制するものは世界を制する
～アジア・ユーラシア物流革命時代の到来

①地政学からの視点

地政学者で有名な英国のマッキンダーは『ユーラシアの心臓部、中核を制する者が世界を制する』と主張。一方、米国のスパイクマンは『ユーラシア大陸の周辺沿岸部を制する者はユーラシアを制し、世界を制する』と喝破した。カーター大統領元補佐官のブレジンスキーは『地球上で最も重要な舞台のユーラシア大陸への積極的関与が米国の覇権維持のためには必須だ』と21世紀に最大の発展をするユーラシアの重要性を

強調している。グローバルビジネス、グローバルマーケティングの観点からも21世紀はユーラシアを制する者が世界を制する。21世紀はユーラシア大陸が世界のインフラ建設、貿易、投資の主戦場になることは経済史的にも地政学、地経学上も間違いないところである。日本はアジアからヨーロッパへ続く世界最大の版図を有するユーラシアの重要性を認識し、「一带一路」、そのプロジェクト資金を融資する「AIIB」(アジアインフラ投資銀行)への参加を日本の21世紀の世界戦略、グローバル戦略として真剣に考慮すべきである。

②アジア・ユーラシア物流革命時代の到来

既に検証してきたように1820年代は中国、インド(Chindia=筆者の造語)、アジアで世界のGDPの60%近くを占めていた。

18世紀後半の英国での産業革命で人類は「農耕時代」から「工業時代」に突入。経済の発展軸が英国へ移動した。Pax Britanicaの到来である。その結果、「七つの海を制し、日没することなき大英帝国」が出現した。しかし『イギリスの覇権(パックスブリタニカ)最大の要因はイギリスの産業革命ではなく(中略)イギリスが物流を重視したことである。「玉木敏明『物流が世界史をどう変えたのか』PHP新社」

その英国も第二次世界大戦で疲弊。戦後、世界経済発展の軸は米国へ移動。Pax Americanaの時代が到来。米国が世界に君臨した。しかし、米国も2008年のリーマンショックを機に国力が下降。21世紀に入り、世界経済発展の軸がアジアに回帰しつつある。再び、Pax Chindia Pax Asianaの時代が到来。アジアが急速に発展興隆しつつあることは、これまで見てきた通りである。

21世紀のグローバル・マーケット競争は価格、品質が均等化し、最期の競争優位の要素は物流費の低減如何となりつつある。中国が主導する「一带一路」戦略はアジアからヨーロッパへ陸と海から物流網を構築

し、国際競争優位を齎す国際貿易、投資戦略である。国際競争力は運賃、すなわち物流費が重要となる。

IOT、AI、ロボティクス、Industrie4.0などの技術革新時代を迎え、品質、価格はほぼ均質化、均等化しつつある。グローバル競争時代の最後の競争優位のカギは物流費の削減が中心となる。

この意味で国際物流・輸送戦略が21世紀の競争力を左右する。以上から中国主導の「一带一路」戦略はユーラシア物流戦略でもあると言っても過言ではないだろう。

まさしく物流でユーラシアを制する者が世界を制する。「一带一路」物流戦略は19世紀のスエズ運河、20世紀のパナマ運河に続き、アジアからヨーロッパにまたがる世界最大の版図のユーラシア大陸（5070万km²、陸地面積の34.1%）、地続きのアフリカ大陸（2920万km²、19.6%）を21世紀に陸と海から結節する壮大なグローバル物流戦略である。

さらに先にも述べた如く、「一带一路」に続く、第4の物流革命としてのユーラシア大陸の北辺部、北極海航路の氷上シルクロード海運革命が2018年に実現する。この意味で「一带一路」は世界の経済、物流に一大革命をもたらすだろう。かかる状況下、わが日本がこの「一带一路」構想と「AIIB」への参加に出遅れることは歴史に逆行することとなり、悔いを千載に残すことになるだろう。一日も早い日本の参加を切望する次第である。

以上

（参考資料）

2017年5月14～16日、29か国の首脳、70の国際機関代表、130か国の代表、合計1500人が参加した。

初の「一带一路」首脳会議で習近平国家主席は最終日に次の点を強調。

1. 「一带一路」を平和、繁栄、開放、創新、文明の道に
2. 400億ドルのシルクロード基金を2千億元（約1.64兆円）増資する
3. 中国国家開発銀行、輸出入銀行がインフラ整備に3800億元の特別貸し出しを行う
4. 会議期間中30以上の国と経済貿易取決めに調印。関係国と自由貿易協定を協議する
5. 2018年から中国輸入博覧会を開催
6. 今後3年間に「一带一路」建設に参加する途上国と国際機関に600億元を援助
7. 「一带一路」の途上国に20億元の緊急食糧援助を行う
8. 国際機関による沿線国家への協力事業に10億ドル（1130億円）を提供する

次回「一带一路」首脳会議は2019年にインドで開催する

会員寄稿文

「介老同穴」奮闘記

山 邑 陽 一

先日、大学の同窓・同期生の会が東京であって、関西在住者の近況も聞きたいというので、私が出かけて行って話をした。妻の介護のために介護付き有料老人ホームに入って老々介護をしていること、介護ばかりしていると両方とも認知症になるので、私が日帰りで絶えず外出してさまざまな行事に参加していること、老人ホームの中にもさまざまな教室があって、絵画やアスレックスや詩吟やカラオケの教室に属したこともあること、そのうち詩吟は先進的な教授法を採っていて、西洋音楽で用いる楽譜を使って学んだこと、中学・高校で習った漢詩の名作が次々に登場して楽しかったことなどを話し、詩吟の実演もし、漢詩の朗読もした。今はそれが発展して神戸の区役所での市民教室で、中国の初級の講座を受け、中国語の再学習もしている。

こんな話を一時間あまりした後で、質疑応答の時間に移ったとたん、老人ホームについて詳しく聞きたいという質問が出て、話題がその方向に移ってしまった。学生時代を一緒に過ごした同窓生がみな、今やそんな歳になってしまったことを痛感した。

介老同穴というのは私の造語であって辞書にある言葉ではない。介護する老人と介護される老人が同じ家に住んでいるという老々介護の常態を表現したのにすぎない。私の場合は私が妻を介護しているが、妻が夫を介護している居住者はもっと多い。それよりも多いのはどちらかに先立たれて老人が一人で住んでいるケースである。独居老人というと寂しいが、老人ホームの場合は独居感が少なく、介護を受けていない老人も多いから、老々同棟といった感じである。入居者の家族や兄弟姉妹が訪ねてくるし、友人が訪ねてきて泊まったりするから、孤独感が少ない。初期費用や継続費用が高

くつくが、両親を亡くして子がなくて夫婦だけの家族となった私にとって、夫婦での有料老人ホームへの入居が最善の選択であった。この選択を紹介してくれた社友の林喜久雄さんに感謝するゆえんである。

社友会の親睦ウォーキングやその他のさまざまな行事にでかけることができるようになったのも、そのおかげである。最近は大阪に出かけることが多くなった。大阪社友会の事務所・会長・会報の印刷所が変わって、今まででもいつも出かけていた梅田に出かけることがさらに増えたかである。「浪速友あれ大阪が好き・住まいは神戸、妻食犬備」というのが私の現状の最短表現である。

なぜこんなにも大阪が好きなのか。米国と東京は世界と日本の悪代官みたいなものである。大阪（関西）はアジアと日本の文化観光首都を志向し、外に及ぼす悪性がない。歴史遺産・文化遺産は多いが人口は過密でない。外国人にも親しみやすい開放性が、日本人である私にはたいへん有難いといえる。

作為的な東京一極集中の弊害はきわめて大きい。東京への富の集中と同時に、国内とくに東京圏での過当競争と、貧富格差の拡大とをもたらした。富の再独占を夢みる「バブル世代」と、権力の自己集中を夢みる「ゆとりの教育」（依らしむべし知らしむべからず）世代とが社会の中枢を占める今の日本では、「自分を含め国民全体を幸せにしてくれる、国という装置を愛する」本来の愛国心（ロマン派の愛国心）ではなくて、「自分の富を最大にしてくれる、国という装置を愛する愛国心」がはびこる。これを改革するためには、今は芸術家と教育者の出番であるが、芸術家たちもまた過当競争にさらされている。

（おわり）

会員寄稿文

ミステリ小説断想』(8)

福 富 直 明

●言葉の変化

カラチに駐在していた時、関西出身の支店長が金庫番だった私に何かの書類を渡して、金庫にしまっておいてくれと言った。暫くして、「さっきの書類、なおしておいてくれたか」と訊かれた。こちらは何の書類か読みもせずに金庫にしまったので、「直すって、どこを直すんですか」と驚いて聞き返した。支店長はちょっと考えてから笑いだし、関西での「なおす」は「しまう・かたづける」の意味だと教えてくれた。

日本人どうしの会話でもこんなことが起きる。まして翻訳の場合、誤訳が出るのは当然と言えよう。しかも言葉というものは世代とともに変化して行くから、ややこしくなる。

1960年に米国でThe Fantasticksと題する小劇場向きのミュージカルが開演され、その後史上最長の上演回数と最高の配当で有名になるが、この芝居の中にrapeという言葉が30回以上も頻出するコミカルな歌がある。ランダムハウス大辞典をみると、rapeの第一義として載っているのは“the act of seizing and carrying off by force”であり、現在使われている性犯罪を意味するrapeは二番目である。歌に出てくるのは、第一義の誘拐、略奪の意味だったのだが、誤解されがちだったので、原作者たちは“raid”と“abduction”を置き換え、更に1990年には歌詞を大幅に書き換えて、原版で歌うか、改訂版を使うか、上演者たちの判断に任せることにした。これなど、世代とともに言葉の使われ方が変わる典型的な例と言えよう。

●名訳

では、誤訳のない翻訳というのはないの

かと考えているうちに、古典の翻訳が思い浮かんだ。

例えば、シェークスピアの『ハムレット』。明治の初期に坪内逍遙が訳したものを始め、数十回は翻訳されており、現在でも大型書店に行けば、6, 7種類くらいの翻訳が手に入る。

これだけ英文学者たちが挑戦してきたのだから、もう誤訳の余地はあるまい。第三幕第一場の“To be, or not to be: that is the question.”で始まるハムレットの独白を見てみよう。

「世に在る、世に在らぬか、それが問題じゃ」「ながらうべきか、しかしまたながらうべきにあらざるか、これが思案のしどころだ」「生か死か・・・それが問題だ」「このままでいい のか、いけないのか、それが問題だ」「生きるか死ぬか、そこが問題なのだ」「生きるのか、生きないのか、問題はそこだ」「生きてとどまるか、消えてなくなるか。それが問題だ」どの訳者もほかの訳者とは違った表現を見つけようと苦心惨憺している気配が伝わって来る。

この台詞の本邦初訳は幕末期に来日した英国の風刺漫画家のCharles Wigramの「アリマス、アリマセン、アレハナンデスカ」という。

終幕のハムレットの死に際の最後の言葉、“The rest is silence.”を、逍遙は「余は静寂」と訳した。この訳文を初めて読んだとき、「ヨワセイジャク」と舞台上で役者が言っても観客に意味が通じたのかなと疑問を持ったが、逍遙の時代に沙翁劇を観に行くような人はそれなりの教養と予備知識があったのだろう。この台詞の現代訳は「あとは、沈黙」と訳した人が3人、そのほか「あとはすべてただ沈黙」「もう、何も言わぬ」

「あとはただ寂滅——」「もう何も言うことはない」となっている。

こう並べてみると、いずれも正訳だろうが、翻訳には誤訳のほかに名訳か悪訳という審美的な問題があり、訳者の文章感覚が問われることに気づく。

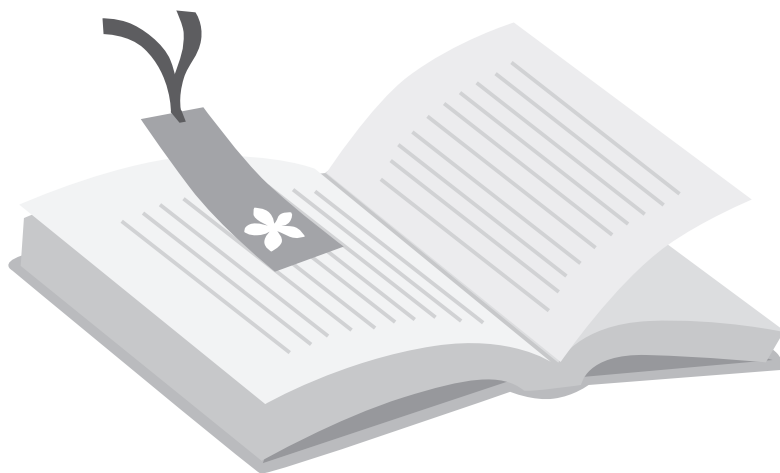
上田敏の『海潮音』は英・独・仏・伊の四か国語からの訳詩集で、序文に「高踏派の壮麗体を訳すに当りて、多く所謂七五調を基としたる詩形を用ゐた」と書かれている。四か国語を使いこなして翻訳するだけでもすごいのに、俳人・歌人のおそらく永遠の課題である七五 調で訳してみせたとは、たいへんな文章感覚の持ち主だった。『海潮音』の訳詩に暗記しやすいのが多いのは七五調のおかげだったと思う。

●『ハムレット』の副産物

第三幕第一場のハムレットの独白はオフィーリアが登場するまで33行続く。この33行の中の言葉を借りて題名にした小説が随分ある。グレアム・グリーンが26歳の時に書き、未熟で平板な失敗作と悟って絶版にした“The Name of Action”（従って現在希書扱い）、オルダス・ハクスレーの

“Mortal Coils”など純文学作品を始め、ミステリ小説ではロバート・B・パーカーの『夢を見るかも知れない』（“Perchance to Dream”）、シリル・ヘアーの『ただひと突きの…』（“With a Bare Bodkin”）、暴虐な運命、理不尽な運命、やみくもな運命と訳されている“Outrageous fortune”は“途方もない財産”という意味にも取れるからミステリ小説にうってつけ言葉で、これを題名に使った作家が4人いる。また“To Die or Not to Die”のようにもじった題名も幾つかあり、ちょっと数えてみたら33行から21篇の題名が生まれている。

話がそれるが、この独白の中に人間が耐えねばならぬ重荷として、ハムレットは“The oppressor's wrong”, “the law's delay”, “the insolence of office”（「権力者の非行」「裁判のひきのばし」「役人どもの横柄さ」）を挙げて嘆いている。しかし、ハムレット自身が権力階級の王子様なのだから、彼が役所仕事の横柄さや裁判のずれを嘆くのはおかしいのではないか。ここだけはシェークスピアはハムレットが王子であることを忘れて、自分自身の庶民の視点に立って筆が滑ったように見える。



会員寄稿文

JRCA(日露中亜)非核平和包囲網のすすめ

山 邑 陽 一

ずいぶん前の話だが、私はいちど日経新聞の意見広告の掲載に応じて、北方四島の一括返還を主張したことがある。その後さまざまな情勢の変化があったので、今はそれを全面的に改めたい。

第一の変化は、民主党政権による尖閣諸島占有によって生じた日中間のいざこざと、そのための防衛費・無用な防衛エネルギーの増大である。領土を持つということは、国家にとって大変な負担になる。「持たざる経営」がよい。

第二の変化は、同盟国に過大な負担を強いて自国のみの繁栄を図ろうとする唯我独尊なトランプ政権の誕生である。日米安保下での地位協定の改定に応じないのみか、欠陥機オスプレーを大量に横田基地に配置させて日本国民を威圧しながら、武器の売り込みに余念のない米国のわが国への露骨な反骨である。

第三の変化は、トランプ政権にとって唯一の外交金星である北朝鮮の核放棄意思の確認である。今年の同国の建国記念パレードには軍事色が影を潜めた。

第四の変化は、中ソの急接近と千島周辺を含む北方での合同軍事演習だ。これは、日本が北方四島の返還を得たのち米軍が基地をおけば、北方四島を攻撃するぞとの前もっての意思表示であろう。その一方で、プーチンが安倍首相に、領土問題を棚上げにして年内にも平和条約を結びたいと云ったこと。しかもこのとき、ゴルフではなく柔道観戦を首相とともにしたこと。講道館

柔道は日本の心であり、ゴルフの場合は、少人数が長時間屋外で拘束されるので、ゴルフから出た商談に乗って失敗する経営者も多い。ゴルフはマイナスを減らす訓練にはなる。

こんな状況の中では、プーチンの提案に乗って平和条約を結び、朝鮮半島の非核化を監視し促進するJRCA(日露中アセアン)非核平和包囲網を作って、朝鮮半島の非核化を監視し促進するのがよい。第二次大戦中の日本軍を包囲するABCD包囲網や、鉄のカーテンを破るための米国・西欧・日本によるソ連東欧包囲網に比し、はるかに平和で成功率も高い。成功すれば、日本と総合商社の活動分野が拡大する。

では、北方四島をどうするか。返還されてもすぐ米軍基地になり四島が第二の沖縄になるなら、返還されないことが日露両国の国益にかなう。「持たざる経営」に徹し、四島の所有権を持たずに利用権だけを得て日露が共同開発するなら、両国の利益にかなう。スヴァールバル条約に倣い両国民が自由に四島を利用できるなら、もっといい。時間をかけても協議する価値がある。

会員寄稿文

ヒューストン時代の少年と40年の交友

芳 賀 信 明

私がヒューストンに赴任したのは1972年の4月のことでした。

当時の会社規則に従って家族が到着したのは6か月後。10月31日、ハロウィンの当夜、妻は当時4歳の長男と2歳の二男を伴ってやってきました。

私たち家族4人の最初の住まいは1112 Bering DriveにあったHedwig Apartmentの一階でした。

そのうちに、子供たちは幼稚園へ通うようになりました。最初は目の色の違う子供ばかりに恐れをなしていた息子たちですが、翌日からはトラブルもなく幼稚園に通うようになりました。

同じアパートには同年輩のアメリカ人の子供たちもいて、すぐに仲良しになりました。

その中にジョシュアとミッシーという二人の兄弟がいました。ジョシュア（通称ジョッシュ）は当時8歳くらい、ミッシー

は5歳くらいだったと思います。住まいがアパート内の同じ並びの数軒先だったので、四人の子供たちはたちまち仲良しになりました。うちの子供たちの英語が急激に上達したのも彼らのおかげではないかと思っています。ジョッシュとミッシーのお目当ては、わが家の怪獣コレクション。当時アメリカのテレビではウルトラセブンの英語吹き替え版を放映しておりましたので、ジョッシュとミッシーは怪獣のおもちゃで遊びたくて仕方がなかったようです。

翌年の8月には、わが家にも娘が生まれました。

娘が成長するにつれて最初のアパートも手狭になったので、ダウンタウンからちょっと遠くなりますが12633 Memorial Dr.のメモリアルアパートメントに引っ越しました。

ジョッシュとミッシーのお母さん、ミセス・マッケイはシングルマザーでしたが、



二人の子供たちにせがまれて、フォルクスワーゲンのワゴン車でよく我が家に遊びに連れてきておりました。

ところが、1976年のある日、この3人が我が家にお別れに来ました。お母さんの仕事の都合かどうかよく分かりませんが、この家族はどこか北の方に引っ越すことになったとのことでした。子供たちは今日がお別れの日なのに全く気にせずニコニコと楽しく遊んでおりました。

1978年10月、私たちは6年間のヒューストン勤務を終えて帰国いたしました。

ヒューストンに行ったときは4歳だった長男は、帰国するときには小学校の5年生に、次男は3年生になっておりました。またヒューストンで生まれた娘は5歳になっていました。

子供たちにとっては日本が初めて国、あるいは初めての国同様の環境で、新たに適應するのは子供たちなりに苦労があったと思います。

それから3年経って、次男が小学校6年生の時に、当時あった少年漫画雑誌「フレッシュ ジャンプ」の口絵募集に応募した次男は見事優勝して「フレッシュ ジャンプ」の巻頭を飾ることができました。当時は漫画作家ゆでたまご先生創作になる「キン肉マン」という漫画が大流行で、凝り性の次男は夢中になって読んでいたようです。そして、このキン肉のスピノフ作品「闘将！ 拉麺男（たたかえラーメンマン）」という漫画で募集されていた敵キャラクター、武器、必殺技の3部門のジャンルの中で、息子が応募した必殺技が全部門の最優秀賞をいただくことになった訳です。口絵には審査委員長アントニオ猪木氏の推薦のコメントが添えられており、息子の名前と顔写真が囲みの中に掲載されておりました。

それから暫くするとアメリカから一通の手紙が次男宛てに届きました。

ジョッシュからです。彼の日本好きは続いていたらしく、日本雑貨を扱っているお店の店頭で「フレッシュ ジャンプ」を見ていたら、次男の顔写真を見つけたというわけです。「凄いな、Youは将来漫画家になるつもりか。」とか簡単な内容でした。

それを契機に、わが家の息子たちとジョッシュ・ミッシーとの文通がはじまりました。

1985年に私はニチメン鉄鋼販売へ派遣されました。

鉄鋼販売でのある日、妻から会社へ「ジョッシュから電話があって、ホテル・オークラにいますと言っているから連絡を取ってみてくれ。」とのことでした。

私がホテルに電話してみると、ジョッシュにつないでくれました。

彼は「今、ある映画俳優のお忍びの日本旅行に同行して来ている。彼は彼女を連れてスイートルームに止まっている。自分はスイートルームの一隅に泊めてもらっているので、今度電話するときにはその俳優の部屋の名前を言ってくれ。」といいます。

その俳優の名前を訊くと、リバー・フェニックスだといいます。聞いたことのない名前なのでスペルを確かめてみるとRiver Phoenixです。ずいぶん変わった名前だなと思いましたが、私はこの俳優が将来ハリウッドの大物スターになるだろうと言われていた若手新進俳優だとは知りませんでした。映画好きな方は覚えておられるでしょう、アメリカ映画「スタンド・バイ・ミー」で登場する少年たちのリーダー格を演じた凛々しい少年を。あれがリバー・フェニックスです。

その後、次男と連絡を取り、すでに若者に成長していたジョッシュとリバー・フェニックスのアテンドは次男に任せました。

リバーは自分のバンドを持っており、そのバンドのメンバーとのつながりで知り合ったジョッシュも伴って来日したものです。

次男はもうサラリーマンになっていたと思いますが、リバー・フェニックスとその仲間たちは全員菜食主義者でレストランを探すのに苦労したそうです。上野の豆腐料理屋へ連れて行ったそうですが、なんとしたことか、息子はカメラを持参していなかったもので、折角のハリウッドスターとの夕食の証拠写真を撮りそこなっていました。

その菜食主義者のリバーが1993年に麻薬の過剰摂取のためナイトクラブで急死したとのニュースに接した時には本当に信じられませんでした。

ジョッシュはその後、都内のライブハウスやフジ・ロックフェスティバルでの演奏に何度も日本にやってきました。宿泊場所は春日部市の芳賀家と決めていたようなので、わが家でも空いている部屋をジョッシュに提供しました。一度は忙しい息子たちに代わって我々夫婦で日光を案内したりしました。



こうして、何度も来日を重ねているうちに、往年の美少年ジョッシュも50代のおっさんになってきました。彼はいつまでたっても気ままなバガボンドで時間の観念が全くなく、明日アメリカへ帰るエアチケットを持っていることさえ忘れていることすらあります。好きな日本のレコードを集めていて、お気に入りには梶芽衣子の「怨み節」とは笑わせてくれます。

最後に日本へ来たのは2016年の8月でした。このときは我が家に一泊してから次男夫婦宅に三泊。我が家では娘の娘たち（私たちの孫）と打ち解けてジェンガなどやって遊んでくれました。また次男夫婦はジョッシュを群馬県の四万温泉へ連れて行き、映画「千と千尋の神隠し」の湯屋のモデルになったという旅館「積善館」に宿泊したそうです。

私たちと別れるときにジョッシュは「今度は、いつ来られるか分からない。」と言っていましたし、息子にも「最初に合っからもう40年以上だな。」とやや感傷的になって涙をうっすらと浮かべていたそうです。またジョッシュから連絡が来ることがあるのでしょうか。

私たちは待っています。

会員寄稿文

……大先輩 三分一克美氏に捧ぐ……

「文豪ゲーテとその妻クリスティアーネ」

竹 内 可 能

過般わたしの一文「天才詩人ゲーテ探索」が社報の投稿欄に掲載されたときのこと、ある日わたしは突然旧会社の大先輩である三分一克美さんからお電話をいただいた。曰く「君のゲーテ探索を読ませてもらったが、実は自分の手元に昔近所に住んでいたゲーテの研究家(故人)からいただいた文献がある。しかし内容が難しすぎて自分には手に負えないから、君が欲するならこれを送って差し上げるに吝かでないが如何？」ということだった。

わたしは一も二もなくお願いしますとお答えしたところ、早速分厚い二冊の書物「ゲーテ『ファウスト』と聖書」上・下巻が郵送されてきた。開いてみると著者は森田邦雄という明治36年生まれの東大工学部の卒業生、長年(戦前)航空機の研究や製造に携わり、戦後会社をリタイアしてから始めたのがゲーテの「ファウスト」研究と聞く。異色の「ファウスト」への没頭は玄人はだしでご本人はクリスチャンでもある。病膏肓とはこのことか、当時の読書界でゲーテの「ファウスト」があまりにひどい読まれ方(訳し方)をされていることに悲憤慷慨して、ついに自家出版して世に問うたのがこの浩瀚な研究書(解説書)である。

わたしはといえば、ゲーテがまさに一生涯を賭けたといっても過言ではない、心血注いで書き上げた「ファウスト」なら、如何に難解といわれようが、もう少し頑張ってゲーテの神髄にふれたい、そのためには聖書との関連で読み直す必要を感じていたところだったから、正直なところ渡りに舟の僥倖といえた。

というわけで、私はその日から二か月間というもののこの書物にかかりっきりで読み明かした。著者は生前森鷗外の聲咳にも接したことがあり、クリスチャンとして内村鑑三の薫陶も得ているらしく、書名よろしく聖書から「ファウスト」を読み解くにはもってこいの著者だったことがわかる。

わたしは今この研究書を読み終えたところで、あらためて思い知らされたのは、ゲーテの真髓云々もさることながら、「ファウスト」を読み解くすべてのカギは聖書であり西欧キリスト教文明にあるといっても過言ではないという発見であった。

とはいえ、わたしが畏れ多いそのような聖書やキリスト教との関連で「ファウスト」を論じるのは他日を期すをしたい。このところは今度あらためて読み直してきた「ファウスト」からの、もう一つの思いがけない小さな発見、つまり余人がこれまであまり関心を示すことのなかったゲーテとその妻クリスティアーネの関係について、下記にして読後感を認めておきたい。

わたしはこれを早速三分一克美さんに捧げ、もって氏のご厚意に報いたいと思うからである。

ゲーテは妻クリスティアーネのことについては何も書き残していないようである。古今東西自分の妻について饒舌に語る人が少ないのは、畢竟するに夫婦にとって片割れ(counterpart)というべき配偶者は自分の分身のような存在だからであろう。しかしゲーテの場合は多少事情が違うかもしれない。

ご承知のようにゲーテの恋愛遍歴の華麗

さといったら、それはもう大文豪だからという言い訳は差しおいても見事というほかはない。それかあらぬか、ゲーテが23歳のクリスティアーネ嬢をみそめて電撃的な同棲生活に入るのは彼39歳のときだった。おそらくは彼自身このへんで恋愛遍歴に終止符を打って身を固めることを考えたのかもしれない。しかしこれは私の推測だが、彼がその後18年もの長い間彼女と同棲しながら結婚に踏み切れなかったのは、両親もさることながら無二の親友、大詩人シラーの強い反対が大きかったと思われる。

その頃のゲーテといったら、「ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン」や「若きウェルテルの悩み」といったお馴染みの大作の相次ぐ刊行などで、一躍著名な作家入りを果たし、あまつさえ、動植物学を中心とする自然科学分野での学者としての活躍にもめざましいものがあつた。周囲に彼のクリスティアーネとの正式結婚に猛烈な反対があつたとすれば、一にかかって彼女の出自が女工あがりだったことに依るものだろう。新進の高名な学究的文化人と一介の女工上がりの小娘との取り合わせが、世人の目に如何に異様に映ったかは想像に難くない。

その大詩人シラーが世を去ったのが1805年、つまりゲーテが晴れてクリスティアーネと正式に結婚したのはシラーの死の翌年であつた。ゲーテ57歳にして自然の成り行きだったと思われる。

しかし繰り返しになるが、彼の正式な彼女との結婚が電撃的な同棲から数えて18年も経た後だったという事実は何を意味するのだろうか。わたしは推理する。当時の教会に対するゲーテの反目と嫌悪は尋常ではなかったとされるが、その彼も敬虔なプロテスタントだったことに変りはない。理由は何であれゲーテが18年もの長い間、クリスティアーネを己の側女（そばめ）か側室のように日陰者に差しおいてきた不実を彼は何と求めてきたのか。そこにゲーテ特有

の強い悔恨と自責の念が疼いていたのではないか。

わたしが注目するのは、上述のように正式結婚に踏み切った丁度同じ年に(1806年)、ゲーテが悲劇「ファウスト」の第一部を脱稿したという事実である。この悲劇第一部最終章「牢獄」が語る結末は、劇中の主人公ファウストの不実（不倫）がもたらす恋人マルガレーテの刑死である。彼女は催眠薬を誤って母親を殺し、彼女の兄はファウストの手にかかって殺害され、そのファウストによって身ごもった彼女は、生まれた赤子を水に投げ入れて殺してしまう。

ここにも私の推理がはたらく。この土壇場の惨劇のなかでファウストは憐れな恋人マルガレーテを救い出そうともがくが果たせず、悔恨と自責の念そして自暴自棄に陥る。そして「ファウスト」第一部の幕は降りる。わたしはこの悲劇の主人公ファウストが劇中で嘆く恋人マルガレーテに対する強烈な悔恨と自責の念は、ゲーテが現実生活で妻のクリスティアーネに対して抱いていたものの投影ではなかったかと思う。ゲーテは「ファウスト」のなかで、その恋人マルガレーテを恰もその昔ゲーテ自身の衝撃的な恋人だったグレートヒェンに擬えているのは、劇作上の単なる作為というべきではないかと考えている。

「悲劇ファウスト」との関連でもう一つゲーテとその妻クリスティアーネのことを書き記しておきたい。

「ファウスト」第二部の「暗い廊下」の中の一コマだが、ファウストが皇帝の願いにより古来西欧社会で美の象徴とされてきたギリシャ神話の美男・美女、幻影のパリスとヘレナに引合はそうとする場面がある。このためファウストは悪魔メフィストフェレスの導きで、“母たちの国”に降り立たねばならないことを知る。このときのファウストとメフィストが交わす会話が興味深いので、その件を下記に引用しておきたい。

メフィスト

実は高度の秘密は打ち明けたくないんですが、…

女神たちが寂しい境地に神々しく座している、

その周辺には空間もなければ、時間はさらさない；

この女神たちについて語ることは困難なのだ。

それは「母たち」なのです。

ファウスト（愕然として）

母たちか！

メフィスト

あなたを戦慄させたようですね？

ファウスト

母たち！ 母たち！何と不思議にひびく名前だろう！

メフィスト

実際不思議なものですよ。あなたがた死ぬ運命の者には

知られることなく、

私どもにとってはその名も呼びたくない女神たちです。

その棲家に往くには、最深所にまで潜り込むのです；

私どもにとってあんなものが必要になったのは、あなたの責任ですよ。

…… 」

以上のファウストとメフィストの会話から読み取ることのできるのは、両者共通の“母たち”への戦慄と恐怖である。

わたしが注目していることは、ゲーテの妻クリスティアーネが同棲以来ゲーテとの間に5人の子どもをもうけていること、しかも彼女がゲーテに先立つようにして亡くなったのはゲーテとの結婚生活（同棲の期間を含めて）28年目のことであった。この間ゲーテから授かった5人の子どもたちも、不幸にして全員夭折させている（長男の 아우グストだけは彼女の死後イタリアで不慮の死を遂げている）。

ゲーテはその妻クリスティアーネの死の床で（正式な結婚から10年目のこと、ゲーテ67歳のことだった）、傍らの妻の亡骸の前で「俺も一緒に連れて行ってくれ！」と泣き崩れたと伝えられている。彼はその妻の生涯がただただゲーテとの間の5人の子どもたちの出産と育児、そして死別だったことに戦慄していたのではないか。

先述のようにファウストは悪魔メフィストから“母たち”の許に行くよう教えられたとき、身震いしながら「母たちとな！聞くたびにゾッとする。聞きたくない言葉だ。どうしてだろう？」と自問してみせる。それはまた以下のようにも解釈されるのではないか。つまりゲーテは生涯にわたり“女性的なるもの”を尊崇し憧憬していたが、その女性的なるものが、子供を持つ母親に変態（変身）した後の、恐るべき生命力（これをゲーテはよく“エンテレヒー”（entelechi）と呼んでいる）に刮目していたのではないか。そこにこそ彼は“母たち”だけが持つ出産（生成）と哺育（育成）の霊を認め、不思議とも思い、戦慄を覚えていたのではなかろうか。因みに彼は動物学の中でもメタモルフォーゼ（metamorphose=変態）の研究をよくしたといわれている）。

（おわり）



当日のメンバー（敬称略）。前列左から山口良孝、吉川秀夫、大西勇、丸山泰三、中原正紀、山田寛治 中央の中腰は仲沢武義、内田英三 後列左から筆者、岩田昭二、高瀬善男、三宅要、安藤幸男、高木秀明、加藤二男、西田昇、浦谷弘三、都築基夫、松村昭太郎（岩居宏一、宮部斉之、山口富治の3人は次回幹事打ち合わせのため写真には入っていません）

月刊ニチメン / 1997年7.8月号
No.379

健在なり、 われら日綿タイガー・シニアズ

ニチメン湘南会ゴルフ・コンペ開催

長谷川 洋



筆者

一九九七年四月十八日、神奈川県足柄上郡の酒匂ロイヤル・ゴルフクラブで、湘南会ゴルフ・コンペが開催されました。参加メンバーは二十二名。湘南ボーイズならぬ湘南グランドパズに加えて、東京ほか近県からも参加者を迎えている昨今の盛会振ります。本会は正式記録が残っている限りでは、平成三年二月から始まって、今回が二十二回目となります。

当日の幹事役は山口富治さん（前回優勝者）と岩居宏一さん（同第二位）にお世話いただきました。今回の優勝は、宮部斉之さ

ん、第二位は岩居宏一さん、第三位は高木秀明さん。毎回和気あいあいとした雰囲気の下、「日綿」および「ニチメン」のベルエポックを共に過ごした懐かしい方々とプレイをエンジョイしています。参加メンバー・諸先輩のそれぞれのニチメンにおける足跡は、会社百五年の歴史の大略、半世紀の長きにわたっています。

大阪に居を移された野村喜久雄さんも、レギュラーメンバーですが、今回は残念ながら不参加。ただし、安藤幸男さんに、メッセージを託されて、いわく「最近はずいぶん80台を時々出まわって」とのことでした。次回のご活躍が期待されます。

当会のメンバーは、さすがにタフな商社マンOBであることの証左に、コンペの前夜祭として、ゴルフ場ロッジで、四人一組の中国文化研究会が開催されることです。メンバーの中にはゴルフ・プレイを省いて、この研究会のみに参加の御仁もおられるのは驚きです。余談はさておき、ニチメン湘南会は、われらニチメンOBの素晴らしい出会いの場として持続して



優勝杯を手にする宮部斉之さん

いきなりものです。月刊ニチメン二月号でも紹介されたサミエル・ウルマンの詩「青春」の気概を持ち、身体を壮健に保ち、人生を大いにエンジョイするつもりです。石原裕次郎の歌に「わが人生に悔いなし」があり、その中で「右だろが左だろが、わが人生に悔いなし」と歌われています。これぞわがゴルフ、わが人生だと気に入っています。毎度毎度、右や左にOBボールを打ち分けてパートナーにご迷惑をかけている小生です。昔々の華のソウル駐在時代に「OBビール」を飲み過ぎた後遺症かも知れません。

ともあれ、二十一世紀も、すぐそこまで来ています。「あわれ麗しの青春過ぎ行くてはかなしや楽しきは楽しめ」でいきましよう。そうすれば、まさに、日々是好日です。ゴルフ大会の記事が、とんだ「OB」レポートになりました。

会員寄稿文

十 句

内 田 天 英

明星をかざして枯木凜と立つ

蒼天へ南天紅葉捧げけり

次世へとつながる余生寒椿

愛想なき隣家の犬や白木蓮

木の芽風切って散策八千歩

うぐいすや里に住みつき欲しいまま

寺の池静の舞の四ひらかな

「かがやき号」トイレも光る錦秋路

ボタン押し降り立つ駅や風の盆

風に舞い白鳥ならんむくげ哉

注：7句目の「四ひら」は紫陽花の別称で正しくは草冠に白へんに巴と書く特に額紫陽花に代表される紫陽花の表現に向く。

会員寄稿文

最近の私のブログから

大 山 弘 雄

「第45回東村山市民文化祭に一緒に出演した仲間へのメール」

演奏会が終わってほっとしています。一昨日のリハーサルが終わった時点では、「これは大変!」と少し心配になっていましたが、さすがベテランの皆さん、本番ではきちんと修正できていたように思いました。(自画自賛かな^^)

しかし、よく考えてみると一番ご心配をお掛けしたのは指揮者のI先生に対してであったと思われます。その証拠は、当日本番直前の緞帳(どんちょう)の降りた中での予行演習的特訓です。

会場には既に聴衆の方々が少なからずお見えになっていたはずですが、そんなことはお構いなしにです。

先生の素晴らしいところは、内心は別として、心配しているような素振りを少しも表に出されず、ひたすら我々が過度の緊張

に陥らないように注意して下さっていたことではないでしょうか。少なくとも私にはそのように感じられました。

そして、このような私の思いをここで皆様に共有して頂ければと思います。

皆様と共に、「先生、本当に有り難うございました!」

心配していた観客数は私の予想以上でした。出演順でトップバッターであるが故に必要な以上に心配していたのかも知れませんが、我々メンバーが一丸となって観客動員に努力したこともあったかなと思います。

私の場合は、囲碁仲間が2人奥様同伴で、また単独で3名来てくれて計7名、ほかに元の勤め先の同僚、後輩等が3名(神戸、松戸、小平から各1名)プラスM楽器店でのオカリナレッスン同期の仲間が1名で、はっきり名前がわかっているのは合計11名の応援団でした。





我々の演奏に対する応援団諸氏の評価はおおむね好意的で、お世辞もあったかと思いますが「プロ並み」「篠笛とフルートが素晴らしかった」「男声コーラスも良かった」「《コンドルが飛んで行く》が素晴らしい。指の動きに眼が釘付け・・・」、「アンコールを要求したのに緞帳が下りてしまった^^」 etc. etc.

神戸から来てくれた友人と午前中の他グループの演奏（ギター、フルート、木管楽器等の各グループによる名演奏を暫く鑑賞してから、もう一人の友人の運転する車でスイス料理店へ。

昼食後、昭和記念公園（立川）へコスモス鑑賞に出かけました。コスモス畑の近くには「木漏れ日の里」という一画があり、武蔵野の古民家と土蔵や水車の実物が展示されていてガイドの解説を興味深く聞かせてもらいました。友人も今日一日が楽しかったと喜んでくれ 幸せな一日でした。

（完）

（註1）当日（10月28日）のプログラムは下記のようなものでした。

〔プログラム〕

1. アメイジング・グレイス

2. 鞠（まり）と殿様
3. 竹田の子守歌～篠笛・オカリナの二重奏）
4. 荒城の月
5. シチリアーナ
6. 山のけむり（男声コーラス付き）
7. ブルー・シャトー
8. 五番街のマリーへ
9. コンドルは飛んで行く

〔出演者〕

（オカリナ）

市川彰彦、伊藤和江、大山弘雄、
最明世津子、曾根ひで子、中野紘一、
西弘子、馬場美智子、原田勝恵、
平井信子

（篠 笛） 沼田ともえ

（フルート） 大森房子

（マラカス） 今門昭光

（指 導） 今門和江（ピアノ） 大橋玲子

（註2）NM OB で当日応援団に加わって下さった3名の方々：

吉本邦晴さん、木津奈緒子さん、
横井正豊さん

～遠路ご来場・ご声援に心より感謝しています

鎌 倉 散 策

新 藤 孝

ニチメン東京社友会のホームページ（HP）に「ふれあい広場」をセットして会員の皆様の交友の一助に為ればと「花巡りウオークへのお誘い」を5月に企画し、散策コースの地図等載せて参加を集めました。まずは世話人だけでも参加して、実行することが大事で、徐々に広がればいいと考えた次第です。

やはり「ふれあい広場」はまだ周知されておらず、6月12日（火）近くになっても参加者は世話人等8名（園山、奥村、入江、蛭田、大羽、木津、赤城、新藤）のみ。想定内として雨天実行を決めていましたが、大型台風の接近で天気予報も曇り時々雨の情報。

そんな中、大羽さんがぎっくり腰で急遽不参加となり参加者7名となりました。

前日の台風も予想に反して大きな被害もなく、当日は雨もあがり北鎌倉駅に出発の9時半前には7人全員が揃い、リーダーの奥村さんから注意事項を聞いて、いざ出発となった。

青空は天気予報よりずっと良く晴れており、参加者の面々の日頃からの行いが良いからと異口同音に聞こえ、散策の幕が開けました。

1. 東慶寺

北鎌倉駅を出発して3－4分歩くと、東慶寺。別名 駆け込み寺。1月の蠟梅、梅や水仙が有名ですが、6月の今は紫陽花や花菖蒲が満開で晴れてきた天気映えてとても綺麗で、一同を歓迎してくれました。また本堂の後ろにある竹林の緑が雨の後でとてもみずみずしく繁っていました。東慶寺は文化人や著名な方のお墓がある事でも知られています。

作家の高見 順、鈴木 大拙、小林 秀雄、西田 幾多郎等の墓がありますが、最近案内板がなく、見つけられたのは 出光 佐三、西田 幾多郎の墓だけでした。

これからの山登りに備えて、皆さん高い方へ登ってこれませんでした。（笑い）

2. 明月院

東慶寺から出て、自動車が混み合う道路の狭い歩道を歩き、横須賀線の踏切を渡り、左折すると、円覚寺方面から来た大勢の観光客も加わり明月院への道はとても混でいました。

東慶寺から歩くこと約15分明月院に到着。拝観料を払う所も並んでいます。

やはりこの時期、鎌倉観光の一番人気の明月院、別名紫陽花寺。



中に入るとお目当ての紫陽花は未だ綺麗に咲いているので、胸をなで下ろしました。今年は気温が高く5月中に紫陽花が満開を迎えていたので、12日には一部枯れてしまっているのではと心配していましたが、梅雨や昨日の台風の雨もあり、紫陽花が美しく、元気に乱舞しています。混みようも半端ではなく、どこも数珠繋がり人で、人、人、人でびっくり。海外の観光客もさすがに多いです。登り切った先の本堂でお参りする人、御朱印を貰う人とここも長蛇の列。空いている方丈の前にも長い列がある。何かと覗いてみると部屋の奥に大きな丸い障子の窓があり裏庭が見える。どうやらこのカメラスポットを撮る為に並んでいたようだ。奥村さんが裏庭に入れるようだとの事で、ユニセフへの寄付の心付けを納め裏庭に入った。この時期だから開園しているようだ。目の前に大きな池があり、その上を木々が覆っている。山登りと自然観察に詳しい奥村さんが、目ざとく白い泡状の物が枝にぶら下がっているのを発見。これが青ヒキガエルの産卵後の物で、この中で卵が孵化しオタマジャクシが生まれ、下の池に落ちて、池の中で成長していくとのこと。最近テレビで見た事を、実際に見ることができ、妙に感動した。確かに眼前の池にはオタマジャクシが未だ小さいが、沢山泳いでいた。池の先には満開の花菖蒲の花が咲き競っており東南アジアからの観光客が菖蒲の花を接写していた。花の様子が蘭等に似ているからか等と思って見ていると、更に奥で奥村さんの声が聞こえる。近づいてみると、そこは明月院の宝、紫陽花を育てる畑とも言うべき所。そこで作業をしている若い女性に奥村さんが紫陽花の挿し木の仕方を教えていたとの事で、密かに苦笑い。

沢山の紫陽花の中で、酸素も十分吸い込んで、気分も爽快人混みにも慣れて、明月院を後にした。

3. 浄智寺から葛原岡神社（大仏ハイキングコース 前半）

再度踏切を渡り、来た道を少し戻り左折して浄智寺。この脇道から大仏ハイキングコースで浄智寺から高德院（鎌倉大仏）まで3.5Kmとの標識をみて、途中休んでも2時間弱で行けるだろうと予測して、いざ出発。朝が早かった園山さんは少しお腹が空かれたようで昼食の時間を気にされながら出発しました。

右に眺める浄智寺は鎌倉五山の第4位円覚寺派のお寺。鎌倉五山は禅寺で全て臨済宗建長寺、円覚寺、寿福寺、浄智寺、浄妙寺です。

緩やかな坂道を登って行くと、やはり山という感じになってきた。突然前方の藪の中から鳴き声と共に茶褐色の羽根をした中型の鳥が飛び立った。蛭田さんによるとキジの雌かキジ鳩か。鳩よりはだいぶ大きかった印象もあった。鎌倉には色々な自然があると感じた。途中で大きな木の下で、気温も上がってきているのでひと休み。園山さんの砂漠での珍しい体験—砂漠でも大雨が降るのだと案内して貰った場所に翌日再度連れてきてもらうと、そこに一斉に草や花が咲き誇っていたのを見た感動を語られていた。広大な砂漠さえTV以外では実際に見た事が無い我々でもその感動が伝わってきました。

しばらく登ると、頂きのようになり道が開けてきた。葛原岡神社到着。鎌倉のパワースポットと書いてある。縁結びの石とか色々ありました。後醍醐天皇の忠臣 日野俊基を祀った神社だそうです。一休みの最中、山登りに精通する奥村リーダーがごまのたっぷり入ったお煎餅と米粒のように白く透き通る物を皆さんに配りました。

米粒のようなのは岩塩だそうで、水分補給と共に必須の持ち物の由でした。流石！

この神社には下から大きな道路もできており、車でも来れるようです。

4. 銭洗い弁天から高德院（大仏ハイキングコース後半）

しばらく大きな道路を下って行くと、急な坂道の方が銭洗い弁天、右が大仏ハイキングコースと書いた道案内。ここで意見が分かれる。体力的にはきつくても銭洗い弁天で御利益を得たい組と、余りの急坂を下った後、その坂をまた登るのは体力的に負担が大きいので、ご利益より現在の体力を温存し、ゆっくりでも先に進みたい組と分れた。

ご利益派の私は久しぶりの銭洗い弁天に下って行っていたが、本当に急な坂で、まさに転げ落ちそうな感覚と靴先が破れるのではと危惧しながら、やっと銭洗い弁天に到着。こちらにも混み合っていて、外国人旅行者も多数。籠の中に、硬貨だけでなくお札までも入れて洗っている人が多い。古今東西お金は多い方がいいらしい。

ハイキングコースに入る為に、今度は転げ落ちそうな坂を登るが、すごい負荷がかかる。

そこに宅配ピザのバイクが上から走ってきた。思わず側道近くに後ずさる。乗っている人は怖くないのかと振り返った。急な坂を登ったことから、分岐点の場所では膝ががくがくしている。これからは緩やかな登りのハイキングコースとなる。まだ民家も連なっていたが、しばらく行くと右も左も下の方に屋根が見えて、尾根を歩いている事が分る。段々ハイキングコースの趣に、昨日の台風の雨の影響で、道が泥濘っている。大分歩いたのに体力温存派の園山さん、木津さんの姿が見えない。かなり先に進んでいるようだ。そこに杖をついて犬を連れのお爺さんが、この先はぬかるみ道の中、登ったり、下ったりを4-5回くりかえすよ。泥濘でいるから、滑らないように注意して行ってらっしゃいと言われた。地元のお爺さんが散歩できる程度のハイキングと軽い気持ちで進んで行くと緩な登りの後、かなり急な下り。木杭の簡単な階段はあるものの、泥濘っていて滑り易いので、体重を十分にかけて降りると蟹歩きのようになり、踏ん張るので太ももの裏がかなり張る。ここから登り、下りを繰り返す内に5人の軽口も消え、ただ滑らないように

細心の注意をして歩いた。道幅の少し広い所で先を歩いていた体力温存派の園山さん、木津さんと合流。園山さんはしきりにお腹が空いたと、日常の昼食時間から相当遅れていると呟いている。なかなか追いつけなかったのは、園山さんが昼食を早く食べたいとの思いから頑張って歩いたからではと冷やかす御仁も。散歩のお爺さんが4-5回の登り、下りと言っていたが、もっと何度もあり、下るのに補助ロープや鎖もありとても初級コースとは言えない。兎に角、滑って転ないように注意して歩いた。大分下ってきて先が開けてきて、やっと高德院に近づいてきて、皆に余裕が出てきた。お天気は天気予報に反して午後になっても陽が照っている。このハードな道を雨天決行していたら大変だった。帰るに帰れない状況となっていた。今日のお天気に感謝しながら、大仏ハイキングコースを踏覇した。



5. 番外編（昼食）

下りの緊張感から解放されると同時に、お腹が急に減ってきた。しかし、何処も混んでいる。

早く食いたい園山さんが遠くの蕎麦屋の看板を見つけ、一同早足で辿り着くも、本日休業の無情のプレート。更に進むとお客が誰も入ってない中華料理屋、オープンしているのか確認して入店。奥村さんが俺は招き猫なんだと話している内に、6人の外国人観光客がやってきて、あっという間にほぼ満席となってしまった。各自オーダーをして待っていると、定食やランチセットは来るものの、一番早く食いたいはずの園山さんの湯麺だけが未だ来ない。どうやら他のお客も湯麺を頼む人が居なかったようで後回しにされてしまったようだ。園山さんを残して、皆さんお先にと笑いながら食べ始めた。漸く、待望の湯麺がきて、園山さんに笑顔が戻った。お疲れ様でした。

6. 高德院と長谷寺

鎌倉の大仏の名で親しまれている国宝。流石に混んでいる。仏殿は何度も台風で流されて、銅製の阿弥陀如来座像のみだが確かに大きい。入江さんが、若いカップルに頼み、大仏の前で記念写真を撮った。大仏の胎内に入るのも人気がある。中学生の修学旅行の団体が記念写真を撮っている。とても楽しそうだ。

高德院を出て海に向かって少し歩き、右折すると紫陽花等四季の花々と高台からの鎌倉展望が有名で、鎌倉のお寺で最も人気がある長谷寺。浄土宗のお寺で本尊は十一面観音。

期待をして参道を歩いて行くと、紫陽花を見るのに、50分待ちとの掲示板。ハイキングの疲れと、紫陽花は沢山見たことから、長谷寺はパスして由比ヶ浜の海岸へ向かった。



7. 由比ヶ浜と長谷の喫茶店

長谷寺から徒歩10分由比ヶ浜に到着。遠くに伊豆大島が見える。波は台風の影響で、いつもより高く、満ち潮なのか長い砂浜も防波堤の近くまで海水が押し寄せていた。

左側の海岸は海水浴場となる材木座海岸、更に先は逗子海岸が見えた。

コーヒーでも飲もうと、江ノ電長谷駅に方に歩いて行くも、7人が入れるカフェも無く、長谷駅の踏切を渡った右奥に喫茶店らしき店があり、中に入ると7人は入れなかった。

外には手作りと思われる、椅子や小さなテーブルが沢山あるので、店主にここを使って良いかと確認し、一同椅子やテーブルを集めて外でのお茶を楽しもうと言うことになった。無愛想な店主ではあったが、出てくるコーヒーはとても美味しい。長谷駅の裏なのに、海風が通り、陽射しで暑いのに拘わらず、とても涼しく快適だった。

今回の鎌倉散策の成功を祝うと共に、今後ふれあい広場をどの様に使って社友会ホームページを充実していくか等、また会員を増やす為に、各部門でのOB会に出席している非会員にも社友会会報を送って参加を促そう等種々の意見が出て盛り上がった。

皆さん本当にお疲れ様でした。とても楽しい一日でした。

長谷駅で散会し、鎌倉方面と藤沢方面に分かれて帰途についた。

第31回 如月会(ニチメン経理部親睦会)開催報告

浅 利 眞 司

2018年6月16日(土)東京青山の青学会館に於いて、恒例の如月会を開催しました。

1988年に名島憲一郎氏が発起人となってスタートしたこのニチメン経理部親睦会も会を重ねて昨年30回の節目に到達。よくぞ継続してこれたなと思いながら、迂闊にもまた1歩を踏み出してしまいました。従前からの有志も年を重ね、合併以降若い皆様の参加を望むことも難しく、いつまで継続できるのか定かではない中、14年間もの長きに亘り、香港駐在から帰国された村上一也氏(S60入社)が初参加していただけたことは、今後の展開に少しの希望を持たせてくれました。

このより若い年齢層のOB・OGの皆様の連携、新たな参加を大いに期待して今後も楽しい会を継続していきたいと思います。今回は、大阪から遠路遥々の参加の永山克彦氏や経理部と緊密なお付き合いのあった財務部の新藤孝氏の参加も加え20名での開催となりました。



会は例年通り、正午スタート、まず全体撮影⇒発起人代表 名島憲一郎氏の開催の挨拶⇒出席者最長老である三分一克美氏による乾杯の音頭⇒歓談⇒初参加村上一也氏の帰国挨拶から順番に出席者近況報告⇒歓談⇒欠席者からのお便り紹介⇒歓談⇒幹事より事務連絡等を経て、あっという間に中締め時間となり、いつもの通り、金井湧二さんの発声で一本締めとなった。

途中、ワイワイ・ガヤガヤ、ああでもない・こうでもない、三々五々

談笑の輪が起こって、お互いに旧交を温め合う楽しいひと時を過ごすことが出来、来年の再会を約束して会は14:00無事終了した。

さて、2019年は、下記スケジュールの通り、同じ季節、同じ会場で、開催する予定です。ニチメン経理本部に係る老若男女の皆さま、また来年も元気でお会いいたしましょう！！

第32回如月会開催スケジュール（予定）

日時：2019年6月8日（土）12：00～14：00（開場11：30）

場所：青学会館（IVY HALL 2F 「シャロン」）

住所：東京都渋谷区渋谷4-4-25

電話：03-3409-8181



<集合写真> 第31回 如月会参加者20名（敬称略）

上段 向かって左から

永山克彦、星野則和、新藤孝、浅利眞司、伊藤尚志、岡田洋輔、梶潟磐夫、村上一也、大羽陽一郎、福井芳樹、田中聡太郎、山本昌裕、細井衛

下段 向かって左から

金井湧二、三浦甲蔵、永田堅志郎、三分一克美、名島憲一郎、内海和男 村澤醇治

一 木 会 開 催 報 告

奥 村 睦 夫

18年9月6日、いつも通り「新橋駅近くの「味里」」で開催されました。

木材本部及び本部関連会社のOB会である「一木会」を年3回（1月、5月、9月）のペースで開催。

1983年から連続10年間、四大外材（米材、南洋材、北洋材、ニュージーランド材）原木輸入量で業界ナンバーワンであったことから「木材で一番」⇒「一木会」と命名され、開催月の第一木曜日に集合するようになり、今に至っております。

会則無し、会長・役員など無し、各自自由参加で気楽に集まり、ランチ+ちょっと一杯を楽しみ、無事を確認し、昔の思い出を語り、故人を偲び、欠席者の近況報告、体調・持病の状況交換など、御齡と酒量のアンバランスにやや疑問をもちつつ、閉会時刻をオーバーするほどの大盛会になっております。

次回には若手、現役の参加を期待しております。



出席者：山口一光 白石哲也 鏑木順治郎 小田有久 小島紀彦 杉野智彦 大久保海生
青井勝 青木浩 曾我宏司 今井明 松尾憲一 菅野昌熾 北大路康信 奥村睦夫
・・・・・・ 15名

次回開催は2019年1月10日（木）、会場：JR新橋駅東口近く「味里」

アーカイブス① : 今回は12年前〈2006年7月6日(木)開催の「一木会」
⇒ 会場は同じく「味里」



⇒皆さん、若かったですね！ 服装、顔色、髪の色、髪色など・・・

参加者：前田征雄 尾形安法 太田昌秀 高尾勝 曾我宏司 今井明 埴生榮勇
大久保海生 山口一光 小林俊三 田畑さん 杉野智彦 鈴木松男
石川博保 奥村睦夫 …… 15名

アーカイブス②



俳句の会「いろは句会」

宇 治 田 薫

いろは句会はこの年末、お陰様で創設来丸30年を経過、第349回を迎えました。

入会ご希望の方はご遠慮なく会員にお申し出頂きたく、お願い致します。

前号会報以降本年4月から9月例会に投句された中から、各自自薦による作品を以下の通りご披露致します。(50音順)

秋田犬の深むる絆海霧深し
菽麦を弁ぜず菖蒲燕子花
降る雨は化粧水なり濃紫陽花
球児らの百回記念暑き砂

宇治田薫風

部屋整理しつつふみ読む日永かな
庭手入れ少しゆるめの夏帽子
洗顔の今朝の空気や水澄める
床の間の隅に置きたる白桔梗

久保田悦子

初夏の日の黄昏時に人思ふ
短冊に安否気づかふ七夕雨
父母の影送り火の中達者でな
炎天下悲喜こもごもの球児たち

佐藤 英二

つんつんと生え出づ土筆光則寺
紫陽花のひと雨あとの変化かな
虹立ちて心の靄も虹となり
一筋の流るる汗も言葉かな

下川 泰子

網棚をはみ出してゐる夏帽子
青梅雨や病臥の人の客となる
片虹や九十九折往く定期便
幼児の低き目線や魂送り

藤野 徳子

奥入瀬の春や瀬音のやや高く
待つ人も無きふる里の余花に逢ふ
あてのなき恋の文など書いて梅雨
蚊遣火のひとすぢ人を優しうす

堀部 暁

ミニMSD会 秋の大園遊会

大 平 栗 雄

MSD (東京原動機部) の濫觴を訪ねれば、1960～1970年代のニチメン大阪本社・産業機械課 (MCS) である。1968年、ヤンマー商いを主体にして、東京本社に 民族大移動で拠点を移した。

名称も 最初 “エンジン農機部” から “原動機部” となった。

我らミニMSD会メンバーは、その頃、原動機部で、ともに机を並べて、連日の残業もいとわず、ワイワイがやがや、楽しく日々を送ったものです。

仕事もやったが、麻雀も良くやったものだ。 病気知らずの元気な時代だった。

原動機部の海外市場は、ベトナム、バングラデシュ、タイ、インド、パキスタン、フィリピン、米国、韓国、独逸 ETC. であった。

したがって、それらの国々には、MSDより夫々駐在員が派遣された。

1975年のサイゴン陥落時には、漆崎、大平両駐在員は、命がけでサイゴン脱出したのも語り草。パキスタンで、乗った飛行機が、ハイジャックされたが無事だった、南部駐在員。

夫々に語らせたなら、話の泉で、出るわ出るわで、毎回語るは 現下の国際情勢、国内政治経済の話題よりは、専ら かつての仕事の話。 駐在地における苦労話やヤンマーディーゼル、三菱重工、東洋社、古野電気 ETC. これら思い出のメーカーのことなど。

ミニMSD会での談論風発は、今や衰えてきた身心の REVITALIZATIONの特効薬と思ひ、今後とも元気に集って大いに語り合いたいと思う、。

尚 今回 (10月6日) の会合は、中華街の四川料理の名店 “景德鎮” で行われ、特記事項として関西から吉田さんの初参加に加え かつてのMSDのお嬢様方、いまや美魔女の三人が参加したことである。 集合写真をご覧下さい。 驚くべきは、容色全く衰えていないこです。

当初 3-4人の横浜での昼食会から始まったのが 今や 最大14人のメンバーに拡大発展したことは 誠に嬉しい限りである。

“VIVA ミニMSD会！”



後列左より

丸野純 岡田茂 大平栗雄 熊谷多恵子 (野木) 吉田修一 樋口龍彦 藤井宏憲

前列左より

風間理絵（佐藤） 小堀裕子 長谷川洋 広本昌也 漆崎隆司

[illegible]

第13回ニチメン機友会開催のご報告

池 永 浩／保 科 孝

毎年恒例のニチメン機友会が、2018年10月13日（土）にアルカディア市ヶ谷（私学会館）にて開催されました。今年は第13回目で電子電機本部が当番幹事の役割を担いました。8月に会員の皆様へのご案内に始まり懇親会の運営など関係各位のご協力を仰ぎながら無事終了できましたことに心から感謝しております。電子電機本部の当番幹事は第7回2012年以来6年振りのことで、現在都心の開発特区として再開発され跡形もありますが当時の八重洲富士屋ホテルで開催され71名の方々にご出席頂きました。6年間の時は流れ、会員の皆様の高齢化に伴いご出席される方が減少傾向となり、今年は天候不順による体調不良や、直前の台風など思わぬ自然災害にも影響され48名のご出席となりました。ご出席下さった皆様に心から感謝を申し上げますと共に、ご都合が悪くご出席されなかった方々に今回の機友会の様子など写真を交えご報告致します。

会は受付終了後、集合写真撮影に始まりました。久しぶりに再会する旧友との賑やかな挨拶が飛び交う中、毎年写真班としてご協力の豊間根さんにより、グループごとの撮影となり、懇親会開始直前までにご来場された方々の写真撮影は無事終了致しました。

(写真は別途添付致しましたのでご参照下さい。)

定刻12時に今回の総合司会者である池永当番幹事の進行により会が始まり、昨年10月からこの1年間に機械関係者で残念ながら逝去された3名のお名前がご披露され出席者全員で黙祷を捧げご冥福をお祈り致しました。

黙祷を捧げた方々のお名前を下記いたします。

沢井 修二郎 様	2017年 11月22日	85歳
廣岡 幹雄 様	2018年 4月2日	83歳
松本 靖史 様	2018年 7月27日	88歳

次いで、水庫機友会会長からご挨拶を頂き「老人の長き一日の大切なこと」をユーモア交え軽妙にお話頂きご出席者からの微笑みを誘いました。

ご出席者を代表して米田信一さんからご挨拶を頂きニチメンへの感謝の思いと、今回体調不良で欠席された大先輩辻井準一さんから機友会への熱きメッセージをご披露頂き感動のお言葉を頂きました。

次いで、関西から継続的に機友会にご出席下さっている稲治寿さんからご挨拶と共にご出席者皆様のご健勝と機友会の盛会を祈念して「乾杯の音頭」がとられ和やかな宴会が始まりました。

今回のお食事はホテル自慢のビュフエ料理だけでなく皆さんのご期待に沿えるよう和食など別途加味してお楽しみ頂きました。

今年もニチメンマンドリンクラブのご厚意により機友会にご出演頂きました。指揮者野田弘さんの倶楽部用への編曲、ご指導など長年にわたるご尽力によって演奏のジャンルは広くクラシックから軽音楽、タンゴ、流行歌、民謡など、機友会を盛り上げて頂きました。今や、機友会の名物となり大好評となっています。

(演奏中の写真を添付致しましたのでご参照ください。)



午後1時を過ぎ、懇親会も佳境に入ったところで電子電機本部が当番幹事であることを考慮して電子情報部OB由利孝さんに、当時ニチメンデータシステム（株）から始まったベンチャー企業の成長を短い時間ではありますがご出席の皆さんに「テクマトリックス株式会社 東証一部上場への挑戦」と題してプレゼンテーションして頂くことになりました。

由利孝さんは現在テクマトリックス株式会社 代表取締役社長としてご活躍されており、趣味は読書で幅広い分野での見識をお持ちです。

「テクマト」プレゼンの内容骨子は下記のレジメのとおりです。

- ・ 会社概要、沿革
- ・ 2000年に何が起きたか・楽天の存在
- ・ 会社業績推移
- ・ 企業理念
- ・ 事業内容
- ・ 中期経営計画「GO BEYOND 3.0」これからの事業戦略

詳しい内容は会社ホームページ<http://www.techmatrix.co.jp>を検索して頂くよう宜しくお願い致します。

懇親会でのプレゼンで全員が関心を持って視聴して頂けるか一抹の不安がありました。時代を先取りする優良企業として注目を浴びている会社だけに皆さんの関心も高く出席者全員が箸を止めプレゼンに集中して下さったことに

感謝いたします。出席者から「プレゼン内容良かったら株買うよ。」の声も上がり頼もしく、先輩諸兄のご支援、応援を宜しくお願い致します。

（プレゼン中の写真を添付致しましたのでご参照ください。）



会も一段と盛り上がり恒例のニチメンマンドリンククラブとのコラボで「青春時代」を出席者全員で合唱し懐かしいニチメン時代を思い出して明日への英気を養って頂きました。

歓談の輪が広がり、賑やかな時間は瞬く間に過ぎゆき、次回当番幹事の船舶本部出身の大曾根弘之さんの代理として常任世話役の久本紘一さんから機友会の歴史と共に今後の継続的な開催を願い、心温まるご挨拶を頂き次回開催は2019年10月12日第2土曜日として、同じアルカ

ディア市ヶ谷で開催することを公表されました。まもなく中締めの日となり当番幹事代表の五月女穰からご出席の皆様および今回の機友会開催にご協力頂きました皆様に御礼のご挨拶を申し上げます。

中締めは健康第一を願って五月女幹事代表がご出席者全員を上手くリードされ、ピタット一本で決まり第13回機友会も無事終了致しました。

約2時間半の機友会でご出席の皆様には十分お楽しみ頂けたか分かりませんが6年ぶりの当番幹事で至らぬ点もあったと思いますがご容赦頂ければ幸甚です。

最後になりますが、常任の世話役 久本紘一さん、豊間根政行さん、受付嬢として明るい笑顔でご対応下さった久佐賀文月さん、岡田真弓さんには大変お世話になり感謝しております。ご協力有難うございました。

来年度のニチメン機友会にも多数ご出席下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

第13回 ニチメン機友会 出席者リスト 2018年10月13日

1	池永 浩	11	大塚 健夫	21	倉又 則夫	31	豊間根政行	41	三原 均
2	稲治 寿	12	柿沼 陽	22	窪 伸一郎	32	中谷 宣英	42	山邑 陽一
3	今村 隆夫	13	影山 雄司	23	米田 信一	33	林 正弘	43	山岸 正雄
4	岩村 久雄	14	蒲澤 信男	24	五月女 穰	34	久本 紘一	44	由利 孝
5	内田 博夫	15	川田 英之	25	杉浦 俊之	35	廣内 卓生	45	吉本 邦晴
6	小野 稔	16	川西 啓三	26	鈴木 淳一	36	福富 直明	受付	岡田 真弓
7	小蒲 智臣	17	川西 勲	27	高橋 要司	37	細井 康男	受付	久佐賀(嶋)文月
8	大曾根 誠	18	木皿 重正	28	田中 長典	38	保科 孝		
9	大曾根弘之	19	木寺 厚二	29	辰井 健	39	水庫 博夫		
10	大羽陽一郎	20	北川 幸雄	30	殿岡 敬久	40	溝江 博三		

ニチメン機友会懇親会

2018年10月13日 於：アルカディア市ヶ谷



後段（敬称略）

大塚健夫・内田博夫・岩村久雄・川田英之・林正弘・佐藤統次・柿沼陽・辰井健

下段（敬称略）

川西勲・山邑陽一・吉本邦晴・水庫博夫・福富直明・山岸正雄・米田信一・田中長典



後段（敬称略）

廣内卓生・数森正彦・蒲沢信男・今村隆夫・木寺厚二・鈴木淳一・窪伸一郎

前段（敬称略）

保科孝・北川幸雄・池永浩・由利孝・五月女穰・久本紘一・影山雄司・杉浦俊之



後段（敬称略）

三原均・大羽陽一郎・木皿重正・中谷宣英・豊間根政行・大曾根誠・大曾根弘之・殿岡敬久

前段（敬称略）

細井康男・小野稔・溝江博三・川西啓三・古家章・倉又則夫・稲治寿・高橋要司



（敬称略）

細井康男・岡田真弓・柿沼陽・久佐賀（嶋）文月・豊間根政行・三原均・大塚健夫
 <写真に写らなかった方>（敬称略）小蒲智臣

高島正博君を偲ぶ

山 邑 陽 一

2018年7月16日心斎橋で、日本が世界に誇るファド（ポルトガルの民俗歌謡で世界無形文化遺産）歌手、月田秀子さんを偲ぶ会が開かれた。月田さんは、「黒いはしけ」などで日本でも有名だったアマリア・ロドリゲスから自らの後継者といわれたほどの名歌手であった。この会に出席した私は、そこで何年ぶりかで高島夫人にお目にかかり、昨年月田さんが亡くなった日と高島君が5年前に亡くなった日が、一日違いだったとお聞きした。

私が月田さんのことを知ったのは高島君の紹介によってであるし、その後何度となく同じ関西人である月田さんの演奏会に誘ってくれたから、高島君といえはすぐ思い出すのは月田さんのファドであるが、もちろん、それだけではない。ほかにも労働組合活動と映画評論の二つがある。

高島君と私は昭和34年に同じ大学を出て日綿實業に入社した。当時は入社して二・三年のうちに「日綿、岩井産業を合併」とか「三菱商事、日綿を合併」といった新聞記事が飛び交うくらい、総合商社業界再編成の時期の只中であつた。日商岩井や兼松江商が生まれて総合商社10社時代になる直前の、高度成長の入り口に当たる時期である。合併側も被合併側も大きな痛みを受けるこの時期に、合併反対運動を旗印に、日綿はクローズドショップの立派な労働組合を作り、社員・役員の生活の維持・向上に努力した。この時期に全商社労働組合連合会ができ、その議長として商社マンの労働条件の向上に貢献したのが高島君である。同一労働同一賃金・土曜休日制など、どの業界よりも早く商社で実現してくれたのが彼であつた。日銀から来た天下り副社長が

残した過大借り入れを返すまでの長期無配時代にも、日綿は同業他社並みのベースアップを怠らなかった。「人を大切にしていきたい」ニチメンの思想（ニチメン人事部『変革への挑戦』1998年、58ページ参照。全員野球・全員経営）が合併直前まで残り、合併後も企業年金基金解散時の受給予定者への双日の配慮などを考えると、労組活動初期の高島君らの活動に感謝せねばならぬことが多い。

高島君と最後に会ったのは「商社9条の会」での浜矩子氏の講演に誘われた時で、彼は主催者だった。私はそのとき憲法9条と当時の経済政策との関係が講演を聴いてもよく分からなかったが、浜氏の近著（角川新書）を読むと、企業統治を含め大へんよくわかる。これも高島君から教わったことのひとつだ。

ファド・労組・映画が高島君から教わった三大項目であるが、ファドと労組については実地にたくさん教わったけれど、映画については立派な彼の著書を一冊頂いただけで、実地に教わったことは一度もない。もっと長生きしてくれて、一緒に映画を見ながら実地にいろいろ教わりたかった。彼の著書には多くの古今東西の多くの名作映画の題名が並べられ、その一つ一つに丁寧な解説が付せられている。時代背景や関連する年表なども付されていて、読み物としても楽しいが、やはり一つ一つの古い映画のDVDを買ってきて、彼の著書に導かれながら鑑賞したい。彼が私に残してくれた楽しみの一つである。

松本靖史先輩を偲んで

高 木 恒 久

松本さんが亡くなった。7月27日である。享年88歳。通夜・告別式が身内プラスでしめやかに杉並の葬場で行われ、私は通夜に参列故人の冥福を祈った。松本さんとのお付き合いは非常に長い。私が入社間もない頃、ソ連からトンネル機械、溶接機械を輸入され総代理店取得交渉の責任者として働いておられた。1964年頃の話である。常に冷静、かつ温厚な大阪輸入機械のリーダーであられた。

松本さんとの非常に楽しいお付き合いは、私が仕事を辞めた70才頃からだ。

お互い、家が近いので、松本さんも私もお品のいいことに音楽が好きで、よく武蔵野市市民会館の小ホールでばったり顔を合わせたものだ。

先輩は一足先、暑さが35度の7月にこの世を去られた。埴生さんも今年の初めに、亡くなられたが、よく松本さんと一緒に同ホールに来ておられた。終わってから3人で吉祥寺に出て畳一畳程のトリスバーで200円の酒を呑むのが楽しかった。3人それぞれ好きなジャンルが少しずつ違うものの、まあ音楽と云うものは色々違ってこそ聴くのが面白い。

昨年の10月16日松本先輩からメールを頂戴して、初めて体の調子が悪いので医者に見てもらったところ癌と診断され、意気消沈されたとして次のようなメールを下された。

高木恒久さま

ご無沙汰しております。サスマンというバイオリニストの良い席が取れましたか。

実は或る事情があって、貴メールを開いたのが昨夕。読んでみて「チケット買うなら今日までだ!」と思ったが、もう一つ意気が上がりません。頂いたメールをやっと開けて、お返事するのが今になりました。

これだけしたい放題の人生を送って来たのに、生への煩惱断ちがたく、複雑な心境で、落ち込んでおりました。と云うのは、先月末掛かりつけの医者の方の勧めで、杏林病院で上腹部の精密検査を受けた処、胆のうの出口に異常あり、癌の疑いがあるとの事。

部位が複雑すぎて、摘出は年齢的に無理がある。おまけに「転移の可能性」までであるとのインフォームド・コンセント。何の予兆もなく突然の話に驚きました。

御報告頂いたコンサートがマチネーであれば行きたかったかも知れませんが、寒い時期の夜では気が重く、今回は失礼します。もう少し精神的に安定したら、ランチを何所かでやりましょう。

松本 靖史

12月11日私はサスマンなる初めて知ったバイオリニストの名人芸を聴き、松本さんに中々達者なバイオリン弾きだったなぞと電話でお話ししました。暖かくなったら井の頭公園傍の食事処でランチに安いが美味しいワインを一杯やりたいですねと申し上げましたが果たせず残念です。あの世で果たせればと思っております。

合 掌。

訃 報

(2018年6月～2018年11月)

ニチメン東京社友会

※非会員

	氏 名	出身部門	ご逝去年月日	享 年
1	石 井 幹 雄	食 料	2018年 3月 5日	86歳
2	高 橋 修 造	燃エネ	2018年 7月 2日	79歳
3	井 本 公 一	化 工	2018年 7月 6日	94歳
4	松 本 靖 史	機 械	2018年 7月27日	88歳
5	岩 田 英 昭	鉄 貿	2018年 9月27日	83歳
6	立 古 健 策	機 械	2018年10月21日	88歳
7	小 林 靖 幸	食 料	2018年10月22日	84歳
8	高 尾 勝	木 材	2018年11月 8日	83歳

ニチメン大阪社友会

※非会員

	氏 名	出身部門	ご逝去年月日	享 年
1	増 井 嶺 一	繊 維	2018年 7月 9日	86歳

ご冥福を、お祈りいたします。合掌



[illegible][illegible][illegible]

A stylized illustration of a fountain pen and an ink bottle. The pen is dark grey with a silver-colored nib and is shown writing a wavy line. The ink bottle is dark brown with a grey cap and a label.

【編集後記】

会員各位に「会報」25号をお届け致します。

今号も、会員各位から多数のご寄稿を頂戴し、厚く御礼申し上げます。

編集の為に全ての原稿を読ませていただき、筆者各位の博識ぶりに驚くと共に、自分の勉強になっており、ありがたく思っております。

今年も豪雨、台風、地震など自然災害はじめ様々な出来事がありましたが、会員各位におかれては大過なく平穏な日々を送られてることと存じます。

百歳から後輩への長生きの秘訣としての言葉は多数ありますが、ありふれた下記の言葉に感銘を受けました。

「好き嫌いなくなんでも食べること、食べられることの幸せ」

皆さん、長生きして年二回の社友会会合においでください。

会員の皆様には、会員相互の情報提供、随筆、エッセイ、珍譚奇譚、書評、同好会・同期会・OB会ニュース（開催予定、開催報告）、アーカイブス写真（各種会合、仕事関連、課外活動などなど）等今号までの掲載文などをご参考にされて、ホームページ並びに会報をご利用いただくようお願いします。

○ 送り先、問合せ ⇒ okumura1946@canvas.ocn.ne.jp

○ 次号（26号）へのご寄稿の締め切り ⇒ 2019年4月30日（火）

（奥村 睦夫）

ニチメン東京社友会

〒100-8691 東京都千代田区内幸町2-1-1
飯野ビルディング17F

会報発行人：石 原 啓 資

編集担当・広報チーム

リーダー：奥 村 睦 夫

メンバー：入 江 隆 史、北 川 幸 雄

中 田 龍 彦、蛭 田 恒 美

印 刷 所：有限会社 関 内 印 刷